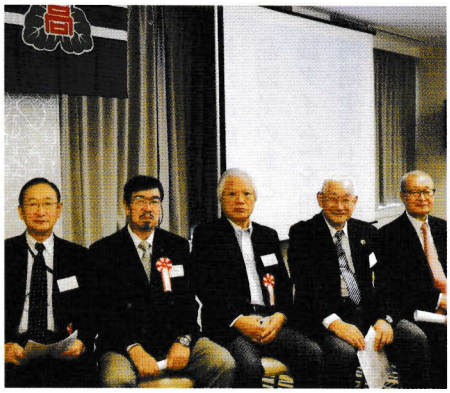
No.17
2019年（令和元年）8月発行

東京鰐陵

Tokyo Gakuryo

http://www.gakuryou.com/

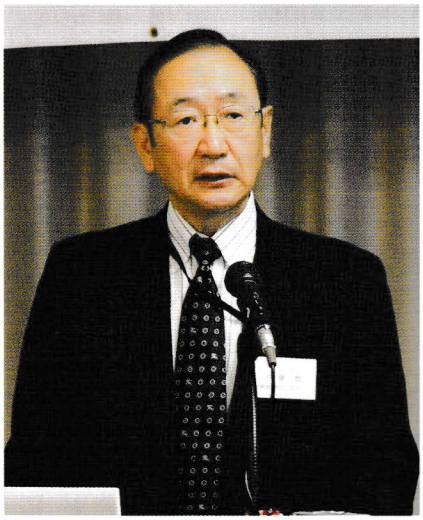
第27回 東京鰐陵会総会開催される



東京鰐陵会第27回総会・会長挨拶

会の発展を図るため皆さんのご協力を

東京鰐陵会会長 **佐藤 悠**（37回生）



東京鰐陵会の第27回総会が平成30年11月11日（日）、東海大学校友会館・望星の間（霞が関ビル35階）で開かれました。東京は立冬以来穏やかな日和が続き、この日も好天に恵まれ来賓・会員合わせて120人が参加しました。

総会は3部構成で、第1部の『総会』は、加藤友成事務局長（40回生）の司会で進められ、まず丹野静也副会長（37回生）が開会の辞を述べたあと、作曲家の和泉耕二氏（38回生）の指揮による校歌斉唱、そしてこの1年間の物故者に対し黙祷を捧げました。

続いて会長が開会の挨拶をしました。

「会長に就任して丁度、1年になりますが、皆様には会の運営に関してご指導、ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。今日の総会には鰐陵同窓会本部から青木利光会長、中塩一夫事務局長、顧問の小松敦校長先生においでいただきました。

亀山紘石巻市長には第2部で講演をお願いしています。青木会長と小松校長先生には後ほど、懇親会の時に改めてご挨拶をいただきます。総会は3時間の長丁場ですが、存分にお楽しみ下さい。

さて2011年の東日本大震災から7年8か月が経過しました。復興事業は順調に進んでいるように思いますが、

（次ページへ続く）

人口減少の問題など残された課題も少なくない、という指摘もあります。東京鰐陵会では東日本大震災が発生した翌年の22回総会にも亀山市長に講演をお願いしていますが、今日は復興の実現状況をお聞きすることで復興がどこまで進んだのか、残された課題は何かを確認し、復興支援の機運を高めていくことが出来ればと思っています。

東京鰐陵会総会は、毎年開催となってから今年で5回目になります。当会では、皆さんからの援助金を運営資金として活動を続けています。今回は本日現在、32万3000円の寄付をいただいています。引き続き皆さんのご協力をお願い致します。

東京鰐陵会では、若手会員の獲得に努めており、いろいろな試みを行っています。例えば今年の本部同窓会総会の主管を務めた64回生の皆さんに、総会後の主管の打ち上げ会が始まる直前、入会の勧誘を行いました。この試みは今年2回目で、しばらくは継続していきたいと思っています。

本日の総会の第1部では、役員の異動報告や行事・会務報告、会計報告などを予定しています。第2部は、亀山石巻市長の講演。第3部の懇親会では、米寿、喜寿を迎えられた出席会員の紹介と記念品贈呈のあと、1時間の『歓談タイム』を用意しています。同期生同士をはじめ先輩・後輩、部活の仲間など時間が許す限り語らって頂ければと思います。

石巻の白謙かまぼこ店提供の『笹かまぼこ』と、会で購入した宮城の銘酒『一ノ蔵』の〝特別純米酒〟2種類を各テーブルに用意します。ふる里の味をご賞味下さい。最後まで楽しく過ごしたいと思います」このように述べました。

この後、境田憲男副会長（37回生）の進行で議事に入り、佐藤会長から役員の「異動報告」、加藤事務局長から「行事・会務報告」、早川誠事務局次長から「会計報告」、堀内文夫監事から「監査報告」が行われ、一括して承認されました。

第2部では、亀山市長（33回生）が『最大の被災都市から世界の復興モデル都市石巻を目指して・実現状況の検証』という演題で講演しました。この中で亀山市長は「復興は道半ばであり、少子高齢化の中で継続的発展が可能なまちづくりをどう進めるかが課題である」とした上で、「スポーツやサイクルツーリズム、総合芸術祭、インバウンドの増加などを進め交流人口の拡大を図っていきたい」と述べました。

第3部の懇親会では、はじめに鰐陵同窓会本部の青木会長（43回生）と顧問の小松校長の2人が来賓挨拶を行いました。

続いて50回生から62回生までの〝若手〟会員7人が登壇し、自己紹介を行ったあと代表2人が挨拶しました。

この後、長寿者のお祝いが行われ、この日参加した喜寿の4人全員が登壇して挨拶し、会長から記念品が贈呈されました。

そしてこの日の参加者の最長老である加藤直人氏（24回生）の発声で乾杯が行われ、1時間の歓談タイムに移りました。

総会は同窓会と同期会をリンクさせて開催するという趣旨に沿って、回生ごとにテーブルがセットされ、同期生や中学校の先輩・後輩、部活の仲間など、和気あいあいの雰囲気の中で語らいの輪が広がりました。

そして鈴木卓郎氏（42回生）の指揮で鰐陵歌や応援歌の斉唱を行ったあと、次回の当番幹事43回生を代表して法被を引き継いだ伊藤純一氏から次回の総会成功に向けて決意表明がありました。

最後に木村貴則監事（33回生）から中締めの挨拶があり、3時間にわたった総会は滞りなく終了しました。

若手、女性会員を増やす努力を

鰐陵同窓会会長 **青木 利光**（43回生）

皆さん、こんにちは。43回生の青木と申します。佐藤会長をはじめ東京鰐陵会の皆さまには本部の総会にお出で頂いたり、会報に広告を掲載して頂いたり、何かと本部の事業にご理解とご協力をいただきまして本当にありがとうございます。佐藤会長によりますと、総会の出席者は去年より20人ほど少ないようですが、平成最後の年の総会が多くの会員の出席のもと、このように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

さて、皆さんご承知かと思いますが、いま100人を超える規模で総会を開催しているのは、ここ東京と仙台だけです。仙台は会員数が多いので出席者数との割合でいうと、仙台がどの位多いのか分かりませんが、今年、仙台では180人位の参加がありま

した。

私は3年前から会長を仰せつかって、それぞれの総会に参加していますが、一番感じているのは50回生以降の参加が少ないことで、仙台でも少なかったのですが、64回生、65回生が主管だったためか、昨年から仙台では若い人たちの参加が増え、今年は60回生以降の出席者が25名ありました。

東京の出席者名簿をみますと、一目瞭然、62回生が1人、50回生以降が6人という状態で、この辺が非常に気にかかります。どうしたらこの年代を増やせるのか、本部に51回生と52回生の副会長がおりますので、彼等にもハッパをかけて何とかこの年代を増やしていきたいと思います。

もう一つ仙台で違ったのは女子の参加者がいたことです。と言いましても1人だけの参加でしたが、女子の会員が参加しますと遠くから見ていても、その部分が輝いているように思いました。来年は東京鰐陵会でも何とか女子の参加があればなと思います。

懇親会の時間を少しでも長くしたいと思いますので、最後に本日ご参加の皆様のご健勝と東京鰐陵会の益々のご隆盛を祈念しまして、はなはだ簡単ですが挨拶に代えさせて頂きます。本日は誠におめでとうございました。

インターハイで女子生徒が大活躍

宮城県石巻高等学校校長　小松 敦

皆さん、こんにちは。校長の小松と申します。今年で3年目になります。東京鰐陵会の皆さま方には日ごろから本校の教育に対し、ご理解、ご協力、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

さて、簡単に学校の近況についてお話いたします。4月からこれまで年間計画に従い大きなトラブルもなく順調に推移してきています。本校の伝統であります「文武両道」に関して申し上げますと、今年3月に卒業した生徒の進路実績は、国公立大学の合格者が83名と例年の70名を大きく超えました。また、東北大学の合格者は現浪併せて12名で、これは仙台のナンバースクール5校に次ぐ6番目の合格者数になっています。このことは朝日新聞に取り上げられ、本校の進学校としての存在感を大きく示すことができたと思います。もちろん、北海道大学や筑波大学、早稲田大学、慶応大学といった難関大学にも多数合格者をだしています。

部活動では、学芸部の美術部、書道部、新聞部が全国高等学校総合文化祭に参加しました。運動部では陸上部、水泳部、ヨット部、ボート部が東北大会に出場しました。

その中で、インターハイに出場した陸上部の生徒が800メートルで全国6位に入賞し、その後、ジュニアオリンピックカップ大会・アンダー18の日本陸上選手権大会で、400メートル7位、800メートル3位になり、日本陸連推薦オリンピック育成競技者に選出されました。もしかしたら東京オリンピックでその活躍を見ることができるかも知れません。

また、ボート部は、県大会で5種目エントリーし、その全ての種目で優勝し、インターハイ出場を決めました。そしてインターハイでは2人乗りダブルスカルで全国6位、4人乗りのクアッドルプルで全国3位という快挙を成し遂げました。国体ではシングルスカルで全国3位に入賞しました。このように男女共学になりましても、文武両道という伝統は守られています。

男女共学になって今年で13年になりますが、学校全体では女子の人数が男子を十数人上回っています。ちなみに先ほどお話した陸上部、ボート部がインターハイで全国入賞を果たした生徒は全員女子生徒です。また、先月、生徒会選挙がありましたが、男子2名、女子1名の3名が立候補し、決選投票の結果、女子生徒が生徒会長に当選しました。

このように、今や本校では女子生徒の存在感が男子生徒を上回るような状況が生まれてきています。今後、男子校時代の古き良き伝統を守りながらも、男女共学の鰐陵の「不易流行」を推進してまいりたいと存じます。

結びになりますが、私事で大変恐縮ですが、私は今年度をもちまして定年退職となります。3年間、大変お世話になりました。改めまして東京鰐陵会の皆様方の御支援・御協力に感謝申し上げ、御礼及び総会の御挨拶に代えさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

石巻市震災復興基本計画実現状況の検証

～最大の被災都市から世界の復興モデル都市石巻を目指して～

石巻市長 亀山 紘（33回生）

■石巻震災復興基本計画

震災があった年の２０１１年12月に「石巻震災復興基本計画」を作成した。基本理念は、「災害に強いまちづくり」、「産業・経済の再生」、「絆と協働の共鳴社会づくり」で、計画期間は10年、残すところあと２年４か月となった。

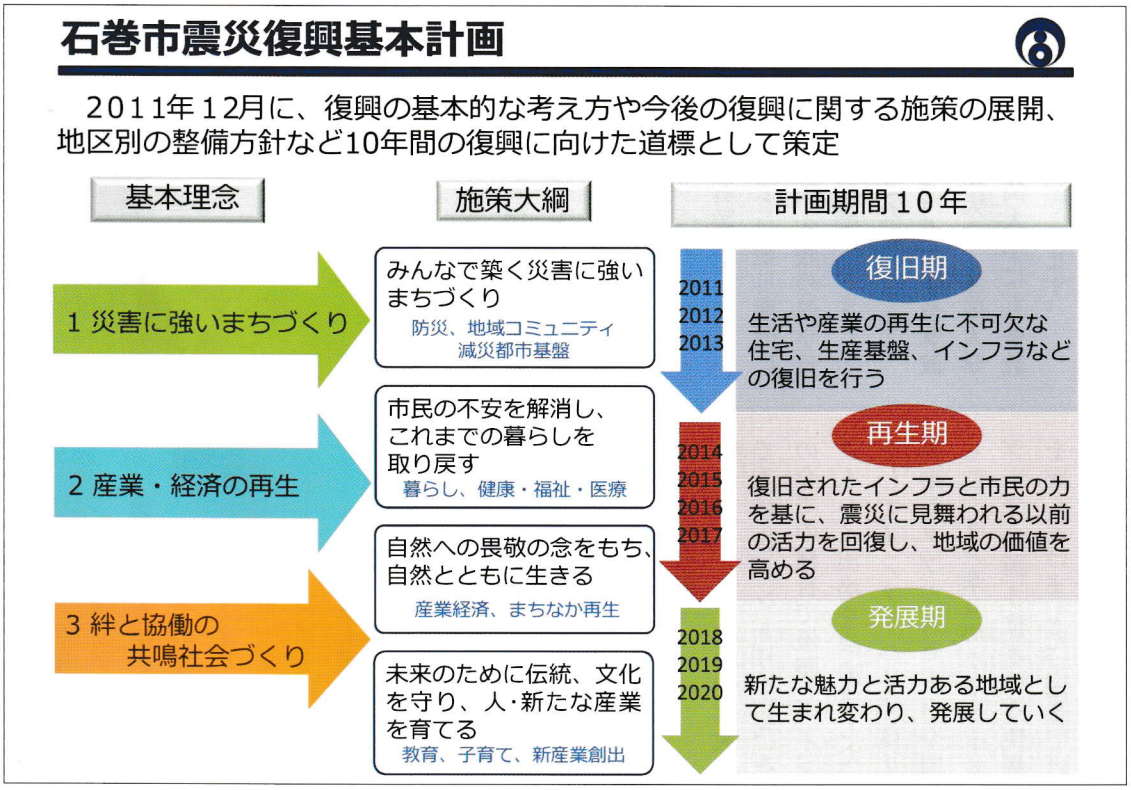
最初の３年間は「復旧期」。生産基盤、インフラなどの復旧に取り組んできた。次の４年間は「再生期」。震災に見舞われる前の活力を回復し地域の価値を高める期間。そして、２０１８年からは「発展期」。新たな魅力と活力ある地域として生まれ変わり、発展していく重要な年を迎えた。

■人口減少

石巻市の人口は、震災前は16万３０００人だったが、２０１８年９月現在、14万４８００人。約８年間で、１万８０００人、約12パーセント減少した。

また高齢化率は、特に半島沿岸部でかなり深刻な状況にある。例えば雄勝地区。震災前は４３００人だったが、現在は約１３００人で約60％の減少。高齢化率は53％、２人に１人は高齢者という状況である。

これは、石巻全体をみても30％を超えているので今後、益々少子高齢化、人口減少社会を迎えることになる。こうした状況を見すえ、持続発展可能なまちづくりを進めていくかが大きな課題となっている。



■復興は道半ば

震災復興計画では「市民の暮らしの再生」、「災害に強いまちづくり」、「産業の再生と人材育成」、「子育てしやすい環境づくり」、「絆と協働の共鳴社会づくり」など、さまざまな事業を展開している。

しかし、震災からの復興は旧市内の中心部だけを取り上げても現在、１４０の事業が並行して行われている状況で、まだまだ、「復興は道半ば」といっていい。

■復旧・復興事業費

復旧・復興にかかる事業費は２０１８年３月現在で、総額約１兆２１３３億円。このうち復旧事業費は約３６６６億円。産業の再生や災害廃棄物処理が中心となっている。復興事業費は約８０１８億円。

特に大きいのが公共土木施設をはじめ災害公営住宅、被災者再建支援の事業である。

■**主な復旧・復興事業**

▼住いの復興（復興公営住宅）
▼堤防建設
▼避難道路
▼半島沿岸部の復興
▼区画整理事業
▼地域医療・福祉・教育施設の再生
▼水産業関係の整備
▼石巻中心部の交流拠点

など

■**石巻市複合文化施設整備事業**

被災した文化センターと市民会館を複合した文化施設として整備する。２０１８年10月から着工、２０２１年３月に完成の予定。

■**交流人口の拡大**

地域の価値を高め新たな魅力と活力ある街を創造するためには「総合芸術祭」（リボーンアートフェステバル）、「かわまちづくり」（川と堤防との一体空間）、「スポーツ交流」（ツールド東北）推進が必要と考えている。

「かわまちづくり」は賑わいの創出に大きな役割を果たすことになると思う。アート、音楽、食を柱にした「総合芸術祭」のリボーンアートフェステバルについては、２年毎に大きな取り組みを行っている。２０１９年には８月３日から９月29日までの59日間、開催の予定で、牡鹿半島を拠点に音楽、現代アート、食を楽しむ「総合芸術祭」を開催する。

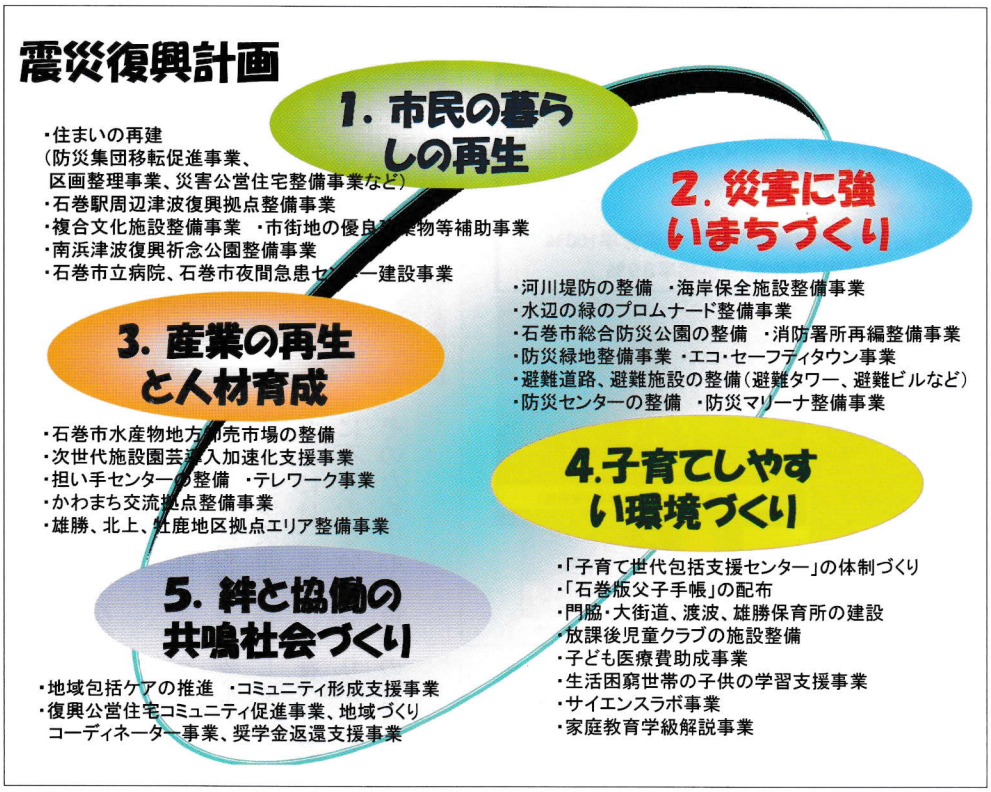
インバウンドについては２０１８年、大型客船のダイヤモンドプリンセスが入港。９月入港したダイヤモンドプリンセスは、２７００人の乗船客のうち80％が外国人で、１０００人近い外人客が街にあふれた。今後、外人客を街に受け入れ、おもてなしをしながら誘致をしていきたい。

■**まとめ**

東日本大震災によって人口減少が急速に進行する地域が点在する一方、中心部でも郊外への人口流出が進み街の活力が失われている。

公共交通機関の結節点である石巻駅周辺に都市機能を集積・高度化して中核拠点を形成するとともに、中心市街地への街なか居住による定住人

（次ページへ続く）

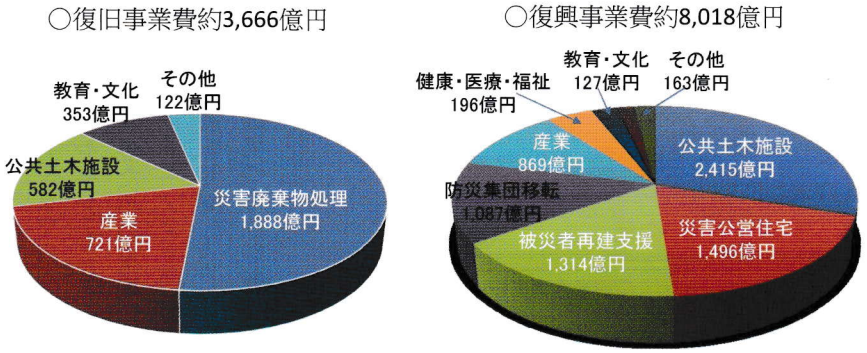


復旧・復興にかかる事業費

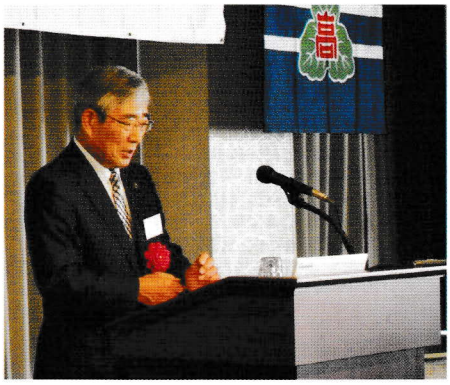
復旧・復興にかかる主な事業費の総額は約1兆2,133億円を予定しています。震災前（平成23年度）の石巻市の一般会計歳出予算は617.5億円であり、市の一般会計予算のおよそ20年分に相当します。

復旧・復興事業費

総額約1兆2,133億円



※事業費は、復旧・復興事業費調査(平成30年3月実施)に基づくもの



口の回復や、かわまちづくりと連動した賑わいと安らぎのあるコンパクトな街づくりを進める。

超高齢化社会を迎えるに当たり、市民の誰もが安心して健康かつ笑顔で暮らしていくためには、医療、福祉、介護に不安のない街づくりが必要。そのため中心市街地の石巻駅周辺に行政、防災、医療、福祉及び交流の拠点整備を進めるとともに、総合支所を中心とした地域の拠点づくりを進め、地域交通と地域包括ケアのネットワーク化を図りながら地域全体で支え合うまちづくりを推進する。

若者の人口流出により、今後、地域経済や地域社会の停滞に深刻な問題を引き起こす恐れがあることから、結婚から子育てまでの切れ目のない支援や子どもたちの健全な育成のための支援について、ハード・ソフト両面から各種施策を実施し、子育てしやすい環境づくりを推進する。

紙幅の関係で概略の記述にとどめた部分がありますのでご了承下さい。講演で使用されたパワーポイントの全データはHPに掲載されています。
http://www.gakuryou.com/201811PP.pdf

東日本大震災の復興状況1

○住まいの復興（いずれも平成30年3月末現在）
・復興公営住宅：市街地部で3,843戸（計画戸数：3,883戸）、
半島部で573戸（計画戸数：573戸）が完成 →（計）4,416戸 進捗率99.1%
・防災集団移転：市街地部の宅地引渡し戸数 852戸
半島部の宅地引渡戸数 612戸
・区画整理：新市街地6地区で、1,360区画（計画数：1,360区画）が完成 → 供給率100%
既成市街地5地区で、1,032区画（1,162区画）が完成 →供給率89%

新市街地新蛇田地区

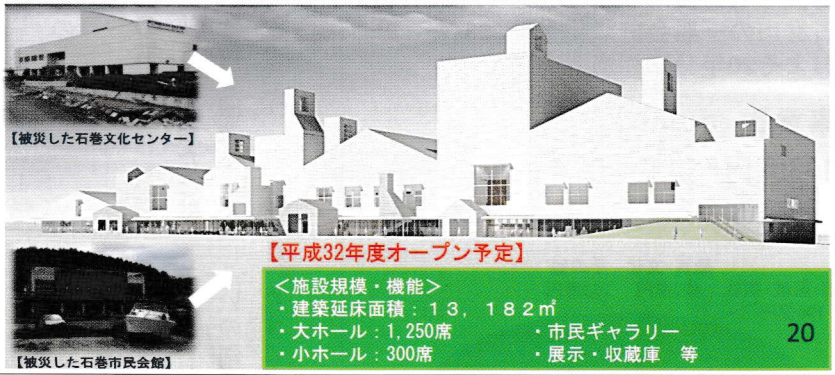
半島部の防災集団移転（整備後）

復興公営住宅

石巻市複合文化施設整備事業

企業版ふるさと納税活用

○音楽やミュージカル、演劇等が行えるホール、市民ギャラリーとしての生涯学習機能や、石巻の歴史・文化の展示を行う博物館機能を備えた複合文化施設を整備
○文化芸術の発信・創造・継承の拠点として活用
○近隣の市町と連携した様々な企画を戦略的に実現させ、リピーター獲得やイベント開催時の集客力を向上し、継続的な人の流れを呼び込み、交流人口の拡大を実現
○平成28年8月に地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）活用のための地域再生計画を策定し、国の認定 （H28実績：3社 150万円、H29実績：3社 100万円）


【被災した石巻文化センター】

【平成32年度オープン予定】

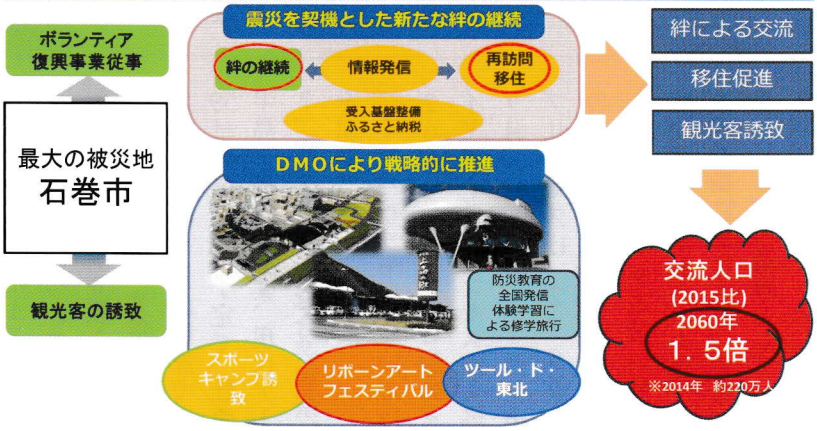
【被災した石巻市民会館】

＜施設規模・機能＞
・建築延床面積：１３，１８２㎡
・大ホール：1,250席　・市民ギャラリー
・小ホール：300席　・展示・収蔵庫　等

20

まち・ひと・しごと創生総合戦略　交流人口の拡大

・震災以降、復興支援やボランティア等で本市を訪れた方との新たな絆を大切にし、交流を継続するとともに、受入基盤整備による移住促進を図る。
・ＤＭＯによる戦略的な観光客誘致やインバウンド増加に向けた企画・誘致を積極的に推進し、交流人口の拡大を図る。



「喜寿」の会員に記念品

東京鰐陵会では２０１５年の第23回総会から「米寿」と「喜寿」を迎えられた会員で、元気に総会に参加された方々を紹介し、健康を祝して記念品の贈呈を行っています。

今回は「米寿」の参加者は残念ながらいませんでしたが、「喜寿」を迎えられた小林喬郎氏（32回生）、加藤憲一氏（32回生）、手代木扶氏（32回生）の３氏と、１年生の時に健康を害して卒業まで５年かかったという久保文征氏（34回生）の４氏が総会に参加。全員から挨拶をしていただき、会長から記念品が手渡されました。

32回生はアカデミックな世界に進んだ人が少なくないということで、今回はレーザーレーダーの研究で知られる小林氏とアンテナ・電波分野の研究者である手代木氏の２人に、専門分野の紹介や業績などについて寄稿していただきました。

当番幹事回生を終えて

新田輝夫（42回生）

「どうにか」「やっと」当番幹事の仕事を終えて、次回当番幹事回生に引き継ぐことができたというのが今の素直な気持ちです。

第26回総会で41回生から引継ぎを受けた時、42回生の出席者は４名でした。総会後、少し間をおいて４名が集まり、当番幹事の仕事を全うするためには最低10名以上の参加が必要であるとの共通認識を持ち、首都圏在住の同期会の代表幹事をしている鈴木卓郎君を中心に声掛けを行いました。10名くらいは集まるだろうという甘い期待を持ったまま総会当日に近づいていきました。

８月に総会の案内、会報紙の発送作業に当番幹事回生が数名参加してもらいたいとの要請を受けて同期に連絡した際にはやっと１名、高橋久雄君が仕事の合間を縫って作業に加わってもらいました。

その頃から、私の気持ちの中に総会当日に同期が集まるだろうかという不安が広がり始めました。

出欠はがきの集計を聞いてからも出席要請の連絡をしました。

結果、不安は的中し、なんと総会当日の42回生の出席者は４名でした。

当番幹事の出席者が少ないため総会資料配布、会場案内等当番幹事がすべきことは運営委員の先輩方にしていただきました。

当番幹事として、懇親会の司会進行を田口敏明君、応援指揮を鈴木卓郎君、会場案内を村上圭司君に担当してもらいました。

総会に参加された方は気が付かなかったと思いますが、司会進行の田口君は途中ハプニングがあったにもかかわらず、臨機応変に対応してもらい、大役を無事勤めてもらいました。鈴木卓郎君にはタイムスケジュール通りに終わらせる見事な応援歌の指揮をしてもらいました。ちなみに私新田は記録係として、元勤務先の後輩でもある佐藤昌克君と一緒にカメラマンをしていました。

４名という当番幹事回生としては最近稀にみる少ない人数ではありましたが、運営委員をはじめとして多くの方々に支えていただき、懇親会の司会等重要な役割を無事に果たすことができました。

総会で次回当番幹事回生である43回生に引き継ぎを行いましたが、本総会には８名出席しておりましたので私たちのようにはならないだろうと思っております。

ただその先は不安です。総会に参加している人も少ないので、私たちと同様にならないよう今から準備と対策が必要ではないかと思います。

私個人の反省は、同期の日頃のコミュニケーションが大事であるにもかかわらず、私たちは不足していたので、集まることができなかったのだと思います。もう若くはないと思っているかもしれませんが、この会ではまだまだ若手である43回生以降の会員の方はぜひ同期と連絡をとってこの会に参加してください。そうすることで総会の参加者が増え、この東京鰐陵会の更なる発展に繋がることになります。

総会に参加していただきました会員の皆様に感謝もうしあげます。ありがとうございました。

総会「回生写真」

24 ～ 25 回生

御来賓、役員

~~30~~ 29 回生

26 ～ 28 回生

34、36 回生

30 ～ 33 回生

総会「回生写真」

37、38 回生

37 回生

41、42 回生

40、41 回生

48 ～ 62 回生

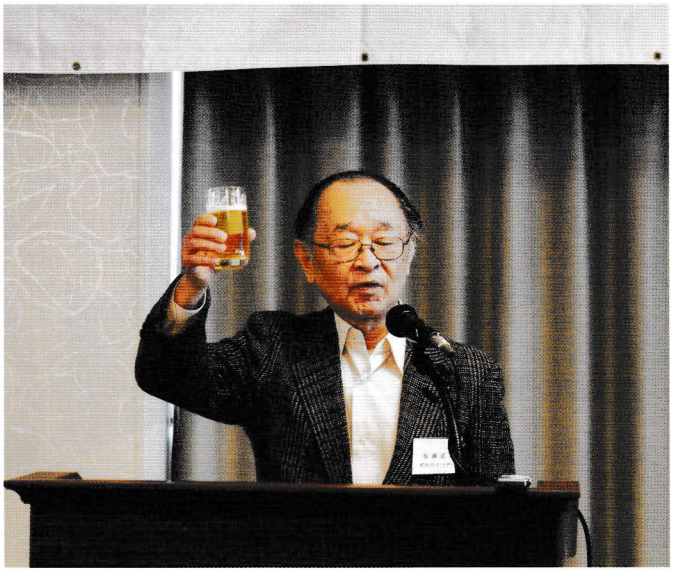
43 ～ 45 回生

総会「会場風景写真」

若手参加者の紹介

亡くなられた方々のご冥福を祈って黙祷

懇親会司会の田口敏明さん（42回生）

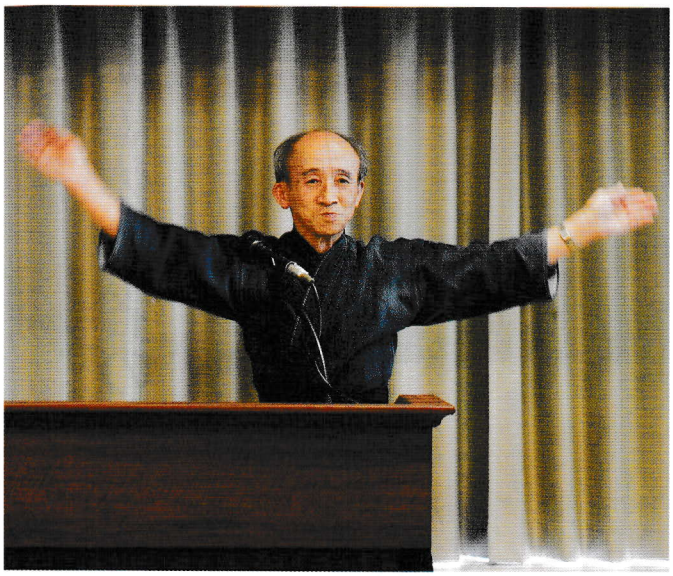


乾杯・ご出席最長老の加藤直人さん（24回生）

当番幹事42回生の挨拶

歓談風景

総会「会場風景写真」



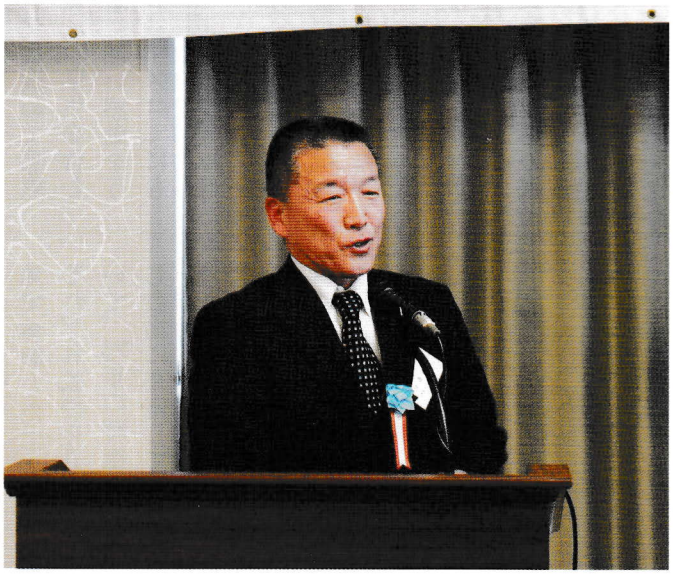
応援歌、鰐陵歌の指揮をする鈴木卓郎さん（42回生）

歓談風景

次回当番幹事43回生への引き継ぎ

応援歌、鰐陵歌斉唱

中締めをする木村貴則監事



次回当番幹事回生を代表して挨拶する伊藤純一さん

特別寄稿 1

長崎原爆体験者の講演会に学ぶ

奥山 興悦（31回生）

長崎の原爆も石巻の3・11も過ぎ去ったことではなく、過ぎ去らなかった、過ぎ去ってはいけない大事な記憶である。

平成30年5月、専修大学で73年前の長崎原爆を体験した柳川雅子さん（87歳）の講演会が行われた。柳川さんのご主人は著名な元裁判官の故柳川俊一さん（修習4期）。一弁の文化研究委員会の判例研究会では後進の指導に大変貢献された方である。

柳川（旧姓石田）雅子さんは昭和6年文京区に生まれ、昭和20年長崎地裁所長となった父に従って長崎高等女学校に転校。同年8月9日学徒動員先の三菱兵器長崎工場（爆心地から約1キロ）で被爆。奇跡的に一命をとりとめ生還した。

原爆症で入院中の病床で書いた雅子さんの手記は、東京の兄穣一さんの発行する「石田新聞」に「雅子斃れず」として掲載され、親戚中で回覧。終戦後、父壽さんはこれを出版しようとして奔走したが、「表現がリアルで反米感情をあおる」として連合国軍総司令部（GHQ）により発禁処分。昭和24年に初出版され、14歳の少女による被爆直後の体験記として大きな反響をよんだ。

平成5年、NHKスペシャルでも放映され、平成22年及び平成26年に復刻版が出版されて、長崎原爆体験記「雅子斃れず」は原爆文学の原点として世代を超えて長年読み継がれてきた。

しかし、柳川さんは、他の過酷な被爆体験者に対して申し訳ないという気持ちから長い間、人前で自分の体験を語らなかった。

私は裁判官時代の恩師の石田穣一さん（修習5期）にも協力をお願いし、平成26年都内の小さな学習会で柳川さんの講演会が初めて実現した。「ぜひ若い人たちにも体験談を聞かせてほしい」との反響があったので、柳川さんは被爆体験を語り継ぐことが生かされた自分の使命と考え、学校での講演に出られるようになった。

その使命感は、東日本大震災で4000人の犠牲者を出した宮城県石巻市出身の私にも通じるものがあった。戦争や震災の記憶を後世に語り伝えることが大事ではないかと考え、柳川さんの支援をしている。

講演会で柳川さんは長崎での生々しい被爆体験を語ったあと、日本の遠い将来のために「雅子斃れず」を世に残してくれた亡き父に改めて感謝していると述べ、学生を含む満員の受講者に深い感動を与えた。講演会はマスコミにも公開され、全国紙で大きく報道された。

柳川さんの父石田壽さんは、戦前東京地裁で初の陪審裁判を担当。昭和25年全国に先がけて長崎地裁で証人尋問の録音実験を試み、昭和28年京都地裁所長時代に「原爆物語」と題して、長崎での被爆の状況について講演し、その録音記録を残していたことが数年前判明した。驚くべき先見性というほかはない。

講演会当日、私と同じシニア合唱団仲間の90歳の女性が熱心に聴講していた。昭和20年満州のハルピン高等女学校を卒業したばかりの彼女は、8月9日の午前、突如ソ連軍が満州侵攻してきた時の恐怖を今でも鮮明に記憶しているという。

彼女の父はソ連兵に強制連行され、6年間シベリアに抑留された。同じ日にソ連の満州侵攻と、長崎への原爆投下という歴史的事件（前者のため後者の予定が早められたとの説もある）を遠く離れた土地で体験した二人の女性が、それぞれ戦後を見事に生き抜いて、73年の時空を超えて同じ会場に在室していることに私は感動を覚えた。お二人に共通するのは、いつも明るく前向きな姿勢で生きておられることである。

※奥山興悦（弁護士・元東京高裁部総括判事）
会報誌に転載した「巻頭言」は、ホームページの同期会・会員便り欄にもアップされています。

編集委員会の要望をうけて第一東京弁護士会の平成31年2月号の会報に掲載された「巻頭言」を新会報誌に転載することになった。

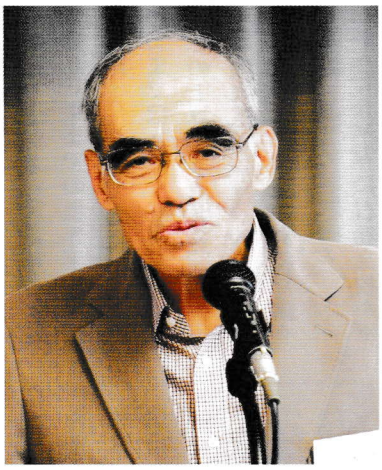
長崎原爆体験者の柳川雅子さん（87歳）の講演会のことをとり上げたのは、戦争や原爆のことを知らない世代の会員に広く伝承するためである。

柳川さんを支援するようになったのは東日本大震災で犠牲になった石巻の知人らの姿と重なり、記憶を後世に伝えることが大切だと自覚するようになったからである。

特別寄稿 ❷

喜寿によせて

手代木 扶（32回生）



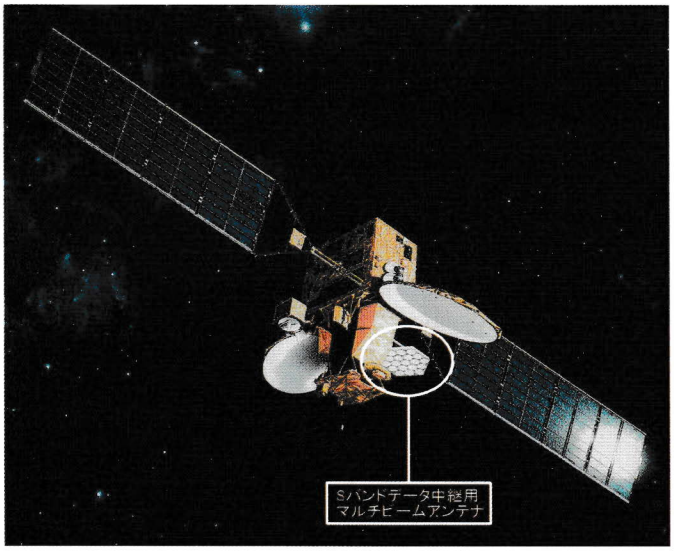
平成最後の「東京鰐陵会総会」で私達4名（加藤、久保、小林、手代木）は喜寿のお祝いをしていただき記念品を頂戴するという光栄に浴しました。

お礼のスピーチで、私はたまたま6月に電子情報通信学会（信学会）から25年も前にやった仕事に対し業績賞を授与されびっくりしたという話をしたところ、後で「東京鰐陵」に記事を書くように要請されました。個人的なことも含め32回生について紹介したいと思います。

私達の同期生は学術分野に携わった人間が多いのが特徴だと思っています。幾つか例を上げると、滝川紘治君、彼は東大の理学部を卒業したあと、高エネルギー物理研究所で加速器を使った素粒子、原子核の研究の第一人者として活躍しました。その後筑波大学教授として研究と教育に当たりました。しかし残念なことに昨年8月急逝され、私達は大変なショックを受けました。阿部欣悦君は東北大理学部で数学の学位を取得後、単身渡米し、数学者としてブラウン大学やジョン・ホプキンス大学で教鞭をとりました。小林喬郎君は私と同じ東北大工学部の博士課程を修了した後、電気通信研究所でレーザーレーダを用いたリモートセンシングの研究に従事し、その後福井大学に移籍し研究と教育に当たりました。彼も今回本紙に記事を寄せています。

その他にも同期で大学教授として活躍した人間が何人もいます。我々の中にはアカディミズムへの憧れのようなものがあったように思いますが、それには恩師の方々の直接・間接の影響があったのかも知れません。

さて冒頭述べた業績賞ですが、当時私は、郵政省電波研究所で衛星通信の研究に従事する傍ら信学会の「アンテナ伝播研究会（ＡＰ研）」の委員長を務めていました。この研究会は研究発表の場を提供することの他、若手を育成することも期待されていました。



データ中継用マルチビームアンテナ

特に私は後者が大事だと考えていたので、委員長に就任後「アンテナ伝搬解析手法ワークショップ（ＡＰ研ＷＳ）」という若手研究者・技術者を養成する勉強会を立ち上げました。このＷＳは、受講者ファーストに徹したもので、受講者の実力を向上させるのに大変有効であったため、その後も継続され、これまで80回を超えるＷＳが開催され、延べ5千人を超える人々が受講しました。

今では携帯電話やスマホは誰もが当たり前に持つ時代になりました。これを支えるため多くの研究者や技術者が活躍しているわけですが、本ＷＳでトレーニングを積んだ人達がその中核的役割を果たしています。それが認められ、このたび25年前の仕事に対して教育分野の業績賞を受賞することになった次第です。通常業績賞というのは、研究、開発、標準等での優れた成果に対して与えられるもので、受賞は原則一人1回と決められています。

実は私も平成10年に「衛星間通信用マルチビームフェーズドアレーアンテナの開発」で受賞しています。このアンテナは技術試験衛星Ⅵ型（ＥＴＳ-ＶＩ）に搭載され、様々な宇宙での実証実験が行われました。宇宙実験のハイライトは米国ＮＡＳＡの高層大気観測衛星（ＵＡＲＳ）とのデータ中継実験に成功し、「国際相互運用性」の確立にも貢献したことでした。

前述のように、業績賞は原則一人1回なのですが、教育分野は研究・開発分野とは別に扱われることになったため、私が55年の業績賞の歴史の中で初めて2回受賞することになりました。少しは自慢できる珍しい記録だと思っています。

※手代木氏が受賞した「業績賞」の受賞理由については、ホームページの〝同期会・会員便り〟欄にも掲載していますので、ご参照下さい。

特別寄稿 ③

喜寿を迎えて

～持続可能な地球環境を残す夢～

小林 喬郎（32回生）

最近、世界各地で地球温暖化による異常気象や台風の災害が増えてきた。石炭や石油など化石燃料の燃焼により放出される炭酸ガスなどが原因との報告を気候変動政府間パネルＩＰＣＣが出している。産業革命から２０００年までの世界平均気温上昇が１・０℃であるが、現状のままでは２０５０年には２～３℃の上昇が予想されている。地球の大気や海洋、極域、生物圏などの自然環境の詳細な調査研究が必要となってきた。

１９６０年春に石巻高校を卒業し、趣味であった電子工学や通信工学分野の世界で有名な地元の大学に入学した。その後に卒業研究テーマとして選んだのが、発明直後のレーザーの原理の理解と改善であった。

夜空にレーザーの光を放つと雲や霧、さらには肉眼には見えない大気分子や汚染ガスなどからも微弱な光が戻ってくることに不思議さと興味を抱いた。当時の我が国は高度経済成長期で、各地の工場の排煙や車の排気ガスによる公害問題が多発して苦しんでいた。

大学の研究者となり、公害物質を遠隔的に測定するライダー、またはレーザーレーダーと呼ばれる装置の研究に没頭した。高性能なレーザーの提案や新しいライダーの計測方式を提案して実験による実証を試みた。半世紀にわたる大学での共同研究員や教え子達は光工学分野で活躍しており、彼らとの同窓会が何よりの楽しみとなっている。

90年代には、米国や欧州の航空宇宙技術研究機関と連携して、人工衛星にレーザーを搭載して地球の大気を計測するスペースライダー国際会議の日本での開催を数回企画して実現した。その後、米国のＮＡＳＡや欧州のＥＳＡでは多数のライダーを打ち上げて、雲や粒子や風の高度分布データを取得する技術を確立した。

一方、日本では図１の様なライダーネットワークを構成するプロジェクトを政府の審議会等に提案した。しかしながら財政などの制限から未だに打ち上げが実現されていない。昨年末にスペースライダーの国際会議が中国で開催されて日本の現状技術などの講演を依頼された。そこで地球温暖化を監視する新たなスペースライダーの重要性と大国の科学技術の役割についての意見を述べてきた。最近の中国は高度経済成長によって経済大国となり、米国にも劣らない大量のＰＭ２・５粒子や温室効果ガスを放出していて首都北京の空が厚い霞と雲に覆われていたのが印象的であった。

一方、２０１６年に発効した温暖化対策の枠組み「パリ協定」では、平均気温上昇を１・５℃に抑えることが合意された。さらに国連では、２０３０年までに全加盟国が達成を目指す「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」を決めて積極的な対策や政策を推進することを決定した。

ところが、昨年米国トランプ政権は自国ファーストの主張から「パリ協定」からの離脱を宣言して、混沌とした政治情勢に突入した。さらには最近の国際共同研究では、今世紀末には約５℃の大きな気温上昇になり、限界点を越えて南極大陸などの雪解けにより海水面上昇が60ｍにも達して、世界中の都市が水面下に埋没してしまう可能性が報告されている。これらの状況から、環境破壊に苦しむ孫達世代の不安と不満が近い将来大きな社会問題となることが予見される。

そこで我々は半世紀にわたる光工学や環境科学の研究成果を基に、名称が「レーザセンシング学会」の新たな学会※を昨年度に立ち上げた。広域での大気汚染や地球温暖化や異常気象の観測や予報を可能にするライダーシステムの実現と実用化を目指して、若い研究者や技術者との研究活動を開始した。さらには東アジアの最高峰で世界遺産の富士山域へのライダーネットワークを設置して、気象や環境の新規な情報を取得するプロジェクトも開始した。昨年夏には学生や若手研究者と一緒に登山して、富士山頂の歴史的なレーダー測候所での調査研究を行った。

喜寿を迎えて、地球環境の持続可能な限界と自分の健康と執念の限界を見つめながら、時の流れの過ぎ行く早さを痛感している現状である。

※ https://laser-sensing.jp

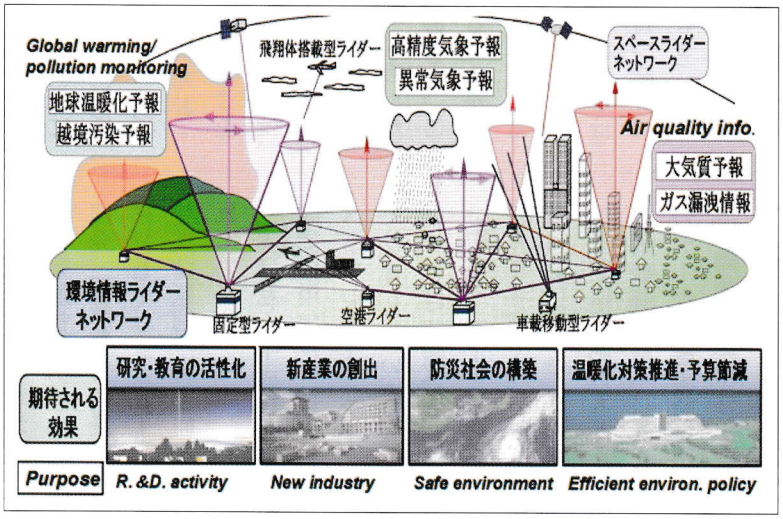


図１　広域の気象・環境監視用ライダーネットワークの概念図

《クローズアップ》いま躍動する〝若手〟

場所を創る

～原点は石巻の造形教室～

谷口 大造（55回生）

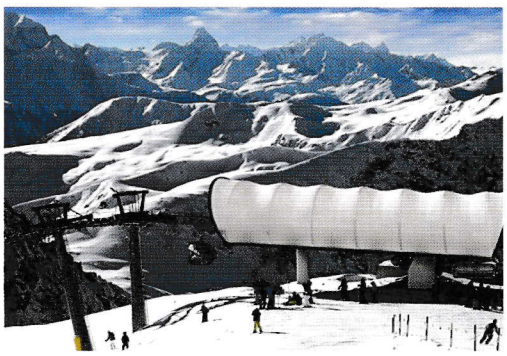
「会報誌に寄稿を」との依頼を受け、自分の今までの来し方を振り返る機会を頂き感謝しております。私は現在、芝浦工業大学建築学部で教鞭をとりつつ、『スタジオトポス』という建築設計事務所を主宰し、二足の草鞋を履く日々を送っております。

私がこの2つの仕事をするきっかけを作って頂いたのが石巻の造形教室『アトリエコパン』を主宰している恩師の新妻健悦先生です。

私は『アトリエコパン』へ中学になってから通い始めたのですが、ここでは幼稚園児であろうと、中学生であろうと、表現の世界では年齢には関係なく創作に没頭し脳みそが痺れるくらい集中して作品を生み出していました。

死者を悼む建築(町田の斎場)

新妻先生は毎週異なるテーマやモチーフを考えて、子供たちにぶつけてきました。いま振り返るとずいぶんとハードルが高く、それ自体が現代アートの領域にあったと思います。しかし当時はそんな難しいことは考えずに、毎回毎回、驚きと感動とともに自分の中の価値観や何気ない風景がカチカチと変化して視えていくのを感じていました。その私の原風景ともいえるアトリエも3・11の大震災の時には浸水し、アトリエから出ることもできなかったとのことでした。子供たちの作品が水に浸り、姿を変えていく様を見ていることは、どんなに無念だったかと思います。



スキーリフト乗り場

私が主宰している設計事務所『スタジオトポス』のTOPOSとは、ギリシャ語で場所を意味します。建築は1つの場所に1つのものしか作れませんので、周辺の環境や建築を使う人たちの気持ちが、その「場所」に投影できるような建築を創りたい、という思いを込めています。

仕事の内容は、照明器具や椅子などのプロダクトデザイン、住宅、集合住宅、寺院などの建築から地方都市の市街地活性化や景観計画策定などのまちづくりと幅広く手がけています。私にとってデザインする対象のスケールが異なっても、そこに関わる人たちとの対話、その「場所」との対話、そして自分の中の気付きとの対話を大切にすることは常につながっています。

まちづくりワークショップ

それと同じ気持ちで大学でも学生たちと向き合っています。例えば設計課題のテーマは一緒でも、学生一人ひとりと対話すると全く異なる指向性がみえてきます。それを見つけてどのように展開していくかは個人によって異なってきますが、何かを教えるのではなく、何か気付きを与えられたらと思っています。

研究室では産学連携でスキーリフト乗り場のデザインから、塩尻市中心市街地のデザインガイドラインの策定、白馬村の景観画策定のようなまちづくりなど、学生たちが実社会から学べることを心掛けています。

例えば、住民とのまちづくりワークショップの開催はリアルな社会問題に触れる貴重な機会で、学生の心の中がカチカチと変化してくれることを願っています。

このような建築の設計活動と大学での教育研究活動の基本は、新妻先生から学んだことです。『アトリエコパン』で経験したワクワクとドキドキを、私自身がどのように表現していけるのか、これからも模索していきたいと思っています。

《プロフィール》

谷口大造（たにぐちたいぞう）

1964年ブラジル・サンパウロ生まれ。83年石巻高等学校卒業。89年東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了。89年丹下健三・都市・建築設計事務所入所。99年スタジオトポス設立。04年鳥取環境大学環境デザイン学科准教授。10年芝浦工業大学デザイン工学部教授。17年芝浦工業大学建築学部教授

思い出の東京鰐陵会③

事務局移転うら話

三宅 哲（27回生）

長年桐朋学園内にあった東京鰐陵会の事務局は、鰐陵出身の先生方に事務処理などを頼っていたのだが、先生方も要職に就かれたりでそれまでのように手伝いが難しくなり、移転を考えなければならなくなった。昭和54年頃から話はあったようだが、移転問題が議題として上程されたのは昭和60年11月15日第8回総会で、正式に承認されたのは昭和62年11月13日青山会館で開催された第9回総会に於てであった。移転に時間がかかったのには理由があった。

第15回総会で挨拶する高橋良さん（15回生、左から2人目）
H11.11.13 全日空ホテル
左から：佐々木敬二（15）、高橋良（15・NHKアイテック顧問）、伏見和郎（14・東大名誉教授）、白澤（旧姓石母田）純（10・藤波小道具社長）

生江義男先生（7回生）が第2代東京鰐陵会会長に就任されるとき、事務局長に高橋良さん（15回生）を指名し、事務局も高橋さんが社長職にあった全日本テレビサービスへ移転するようにお願いした。

しかし高橋さんは著名人であったにもかかわらず「出たがらず屋」の模範生のような方で、生江先生の説得にも、『私ごとき車夫・馬丁の徒輩が東京鰐陵会という名誉ある組織の事務局長など、とても引き受けることは出来ない』と固辞された。事務局員の21回生・菅野七三郎、萬代茂、星澤欣二、22回生・吉田悦雄、27回生・三宅哲、30回生・首藤光春、31回生・阿部進、阿部典明なども会社を訪れ頭を下げたものだ。

後輩たちの懇願に根負けした良さん（と呼ばれて慕われていた）は「先輩からクレームがこないこと」を条件にようやく受諾された。ところが心無い先輩がいるもので「どうして高橋君が事務局長なんだ?」と詰問の電話があったという。「三宅君、約束が違うじゃないか」と叱責された。「その先輩の名前を教えてください、談判してきますから」と申し出たのだが、ついに教えてはくれなかった。思うに人の不名誉になることは口外しない、という良さんらしい先輩への気配りであったろう。

第9回総会で承認を得た高橋事務局長の最初の発案は、会報（新聞）の発行であった。目的は会員相互の親睦を図るツールとして一層会に関心を持ってもらい、かつ新聞製作費として一口2千円の協力と企業広告による寄付金をお願いすることで、事務経費の安定をはかることにある。幸い多くの協力者のお蔭で『東京鰐陵』第1号を平成元年1月に発行することができた。良さんのNHK仲間から「こんな立派な会報を出している同窓会は他にないよ」と褒められたと、嬉しそうに話しておられたお顔を、いまも鮮明に思い出すことがある。

事務局の打ち合わせは、広い社長室で行われたのだが、我々が伺う日は秘書の方に一切業務連絡などしないように指示されていたようだ。さぞかしご迷惑をおかけしたことだろうと思う。

平成3年、生江会長が亡くなられ、第3代東京鰐陵会会長を引き継いでからも、事務局員は変わることなく体制を継続した。

高橋良さんは大正13年河南町の生まれ。生江先生の教え子である。NHK専務理事・技師長を務められ、その後全日本テレビサービス㈱（現NHKアイテック）の社長に就任。FM放送、衛星放送技術の先駆者として世界的に知られており、高品位テレビ研究開発の功績で、昭和58年、第13回モントルー国際テレビシンポジューム金賞を受賞されている。

社長を退任後は、東京会館での例会、NHKのOB会に出席された後、私の事務所に寄り、よもやま話をしていくのが慣例になった。もう時効だと思うので、エピソードをひとつ。

良さんは奥様同伴の海外出張中に奥様を亡くされたのだが、数年後、親しい友人たちが「高橋君の再婚を奨める会」を設け、それぞれ推薦する女性候補を持ち寄ったことがあった。その中で千葉 熙（ひろし）先生（17回生・桐朋学園校長のち理事長）が学園出の女優・栗原小巻さんを提案したところ全員が猛反対。良さん曰く「あんなに再婚を奨めておきながら、ころっと手のひら返して…。やっかみだいっちゃ」と笑いながら話してくださった。

良先輩は平成18年6月に逝去されたが、10月6日東京会館で「高橋良　お別れの会」が執り行われた。会場には往時を偲ぶたくさんの写真がパネル展示されていたが、その中に小巻さんとのツーショット写真を見つけた時は、ちょっと嬉しい驚きだった。

業界では「カミソリ高橋」と畏敬された方だが、後輩にはいつも聞き役に回られ、意見を尊重して後押ししてくださる良き先輩であった。

左から：阿部進（31）、後藤芳蔵（20）、高橋金雄（17）、福原襲治郎（17）、高橋良（15）、三宅哲（27）　H11.6.18　人形町三原堂で

『ラグビー賛歌』誕生から普及へ

原点は鰐陵魂にあり

首藤 光春（30回生）

五輪・サッカーと並ぶ「世界3大スポーツの祭典」の一角を担うラグビーワールドカップが盛り上がっている。アジア初の開催は画期的な意義深い大会である。「ラグビーマガジン」「ラグビーワールド」誌編集に携わってきた筆者にとっては夢か幻か？信じがたい出来事に思えたものである。まさに千載一遇。「このチャンスに何か役立てる事はないか。」、ラグビーの海外取材で常に感動の坩堝に打ち震えていたことを思い出す。母国であり国技とする英国4カ国での試合会場を7～8万人で埋まる大観衆が大合唱するラグビーソングだ。それは圧巻の極みだ。「いつかは日本でも…」野望、捨て難し。作曲の心得なしなら歌詞チャレンジがあるじゃないか。「よし、トライしよう！」願望と現実の違いを悟り作詞にタックル。ストーリーにこめる最大ポイントはラグビースピリッツを3番までに散りばめること。①ワンフォアオール ②フェアプレー ③ノーサイド。何とか完成にこぎつける。青学大ラグビー部時代の先輩・同期に相談を仕掛ける。有志が現れる。この話題にNHK「サンデースポーツ」が取材に応じてくれた。1月6日「勇者たちのナイストライ」は全国放送としてデビューを飾ることができた。映像デビューはユーチューブでも登録済みで日々カウントを重ねている。活字では「石巻かほく」が1月19日付トップ紙面で取り上げる光栄に預かった。普及はこれからだ。思えばここまでこぎつけた原点は鰐陵にあった。「♪朝潮の寄する磯辺に眉清く我等集へり…」、もはや眉は薄く頭髪はなしで昔を偲ぶ縁なし。それでも石高唯一の全国制覇（26回生の国体優勝）の名門ラグビー部に手を染めたら足を洗えずとなり余命幾許かの馬齢を重ねてしまったが鰐陵の学び舎での綱領「質実剛健」「進取独創」「進運は自ら開拓すべし」の魂をわれら雄心会（30回生）メンバーそして石高ラグビー部・OB会に改めてリスペクトしつつ矜持としたい。

石巻ラグビー場柿落しで東京鰐陵会ラガークラブの集合

石巻かほく　2019年(平成31年)1月19日(土)掲載

W杯応援 ラグビー賛歌

ラグビーマガジン初代編集長 石巻出身の首藤さん作詞

心が弾むマーチ調

友人たち協力 広がって定着期待

【YouTube】https://www.youtube.com/watch?v=hwg8IqUPBLk

《一》
熱き血潮 燃ゆる闘魂
すべてを込めろ 楕円球
今ぞ起きて 勇者ラガーマン
フィフティーンの絆
讃えよう
ワンフォアオールで
ナイストライ！

《二》
肉弾相討つ 心の火花
果敢なタックル がっちり
スクラム
今ぞ決めろ 勇者ラガーマン
フェアプレー精神 讃えよう
ワンフォアオールで
ナイストライ！

《三》
響き渡る鉄笛 スタンドまで
尊重すべきは レフェリング
激闘エンド ノーサイド
生まれる友情 讃えよう
ワンフォアオールで
ナイストライ！

QRコード

東京鰐陵会 第2回オープンゴルフコンペ開催される

千葉 保宗（34回生）

昨年第1回のオープンゴルフコンペを開催しましたが、参加者から「今後、継続してコンペを開催してはどうか」という声があがり、運営委員会に諮った結果、継続して開催することになりました。

これを請けて2018年9月18日（火）、東京都内にある『東京五日市カントリー倶楽部』で第2回オープンゴルフコンペを開催しました。このゴルフ場は東京都と山梨県との県境にあり、都心から1時間以内のところです。

当日は秋晴れの良い天気に恵まれ、和気あいあいと楽しい1日を過ごしました。

参加者は会員9名、会員外2名の11名。当初の計画では、会員の中でゴルフなら参加したいという話が総会出欠返信葉書にありましたので、5組20人を予定していましたが、残念ながら3組11人になりました。

今回は「新ペリア方式」で行いました。

結果は、優勝は久保文征（34回生）さん、2位は木村貴則（33回生）さん、3位は内崎光劼（34回生）さんでした。ベストグロスは、久保文征（34回生）さんで、79という素晴らしいスコアでホールアウトされました。

第3回も2019年の9月頃に開催するようにとの希望が出されました。次回は多くの方が参加して頂くよう早めに計画し、案内をしたいと思います。

頑張ってます！29回生 『傘寿の集い in東京』

千葉 弘二（29回生）

「富久の会」（29回生同期会）のメンバーが傘寿を迎えるのにあたり、女川中出身の「友和会」と合同で平成30年9月1日、『傘寿の集いin東京』を開催しました。会場のホテル「マリナーズコート東京」には、先輩、後輩各位、それにご協力を頂いた「石巻圏人会」、「おながわ会」の皆さんも集まりました。

会場、料理、催物についてはいつもの通り今野勝幸君（29回生）と千葉の二人で準備。川崎で活躍している和太鼓集団「鼓楽」の演舞と小林美恵子さん（現石巻圏人会会長）の応援をうけドイツから帰国していた娘の正枝さんとのピアノとヴァイオリンの共演が披露されました。

傘寿の集い in東京

石巻・仙台・京都から駆けつけた5名を含む19名など総勢47名がテーブルを囲み、沼倉寿男君（41回生）の司会でスタート。

会場は終始和やかな雰囲気で、アトラクションは大いなる盛り上がりを見せ、皆さまにご満足いただけたことと思います。

中締めは今井寅三郎君（29回生）、再会を楽しみに終宴となりました。

《短信》総会欠席者からの近況報告

【19回生〜22回生】

菅原　潔（19回生）
家庭の事情により当日、会場に行くのが難しいため、欠席させていただきます。

村井昭郎（19回生）
体力に自信がなく欠席いたします。毎日が終活ですが、いたって元気です。ご盛会を祈っています。

安住重一（20回生）
このごろ神経痛と筋肉の衰えで外出する気になれず、今、リハビリ中です。皆さま方によろしく。

櫻田巖（21回生）
老化現象と闘いながら楽しく生きています。石巻の一日も早い復興を願っています。

佐々木紀雄（21回生）
体調不良のため欠席させて頂きます。

山崎節夫（21回生）
高齢化、食事制限などで欠席させていただきます。ご盛会を祈ります。

阿部彦八（22回生）
昭和19年の美少年達も少なくなったネ。残りの人生、せめて達者で…と。幸い頭と口は達者なれども足腰に若干不安。ご盛会を！

鈴木善治（22回生）
腰と膝の痛みのため、遠出は避けざるを得ません。なつかしい会員の皆さまのご健康を祈ります。

吉田正文（22回生）
石巻中学校4年のとき、転校のため石巻を離れて70年。平成28年6月、同期会の「米寿を祝う会」出席のため石巻を訪れましたが、石巻も大分遠くなりました。仕事、ゴルフ、酒盛を続けています。ご盛会を祈ります。

【23回生〜25回生】

亀山兵吉（23回生）
本年9月末をもって行政書士を廃業し身軽になりました。後輩諸君の健闘を祈ります。

佐々木吉男（23回生）
東京オリンピックが米寿に当たる2年後を、無事迎えられるよう劣化激しい身体にあれこれの医療補修を試みている昨今です。

野中　浩（23回生）
頑健を衒ってはみたものの、物理的衰退には抗すべもなく循環器系の影響か、最近右足の不自由に悩まされている状況です。

芦原　潤（24回生）
毎回いつか出たいと思いながら、当日になると無理となってしまいます。出席した皆様方に何分よろしくお伝えください。事務局の方、ありがとうございます。

石川正雄（24回生）
いつも中身の濃い会報をお送り下さり、誠にありがとうございます。私は現在、近くのデーサービスに週2回通っております。麻雀、将棋、碁、書道、華道、ゲーム何でもあり。50人ばかりの利用者とすぐ親しくなれます。会の盛況を祈念致します。

古座明朗（24回生）
年々、気力、体力の減退を痛感。盛会を祈ります。

高山研造（24回生）
当日は義理のある先輩からの要件と重なり、今年は欠席させて下さい。盛会をお祈りいたします。

玉河信也（24回生）
6月9日（土）、東松島野蒜から志野健君の上京を機に、在関東メンバーの同期生6人で、新宿で会合しました。小生、相応に元気に各種会合に出席しています。末筆ながら盛会をお祈りします。

手塚康二（24回生）
右足、関節痛、腰痛のため欠席致します。皆さまのご健勝を祈念致します。

青沼義信（25回生）
第27回総会事務局及び当番幹事の皆さん、お疲れ様でした。小生、依然として体調が安定せず不本意ながら今回も出席することができず慙愧に堪えません。東京鰐陵会の盛会及びご出席の皆さんのご健勝を祈念しております。

津田健三（25回生）
生憎、ロータリークラブ2770地区の地区大会と重なりました。出席して同期の元気な姿をみたかったです。2001年から2002年、地区のガバナーをやったものですから欠席することが出来ませんので。

結城常明（25回生）
体調不良。

【26回生〜27回生】

浅野貞夫（26回生）
他の会と重複日程となり残念です。来年は出席するよう体調管理に努めながら諸兄の顔を思い起こして「長生き」します。祈ご盛会。

芳賀亥八男（26回生）
家内と朝夕の散歩とパソコン相手に囲碁を楽しんでいます。

及川栄喜（27回生）
生憎と10日より地方に出かけます。

奥田貞幸（27回生）
一応、元気です。朝夕の子犬の散歩が日課です。ご盛会を祈ります。

小松一郎（27回生）
出席できず残念です。石巻の復興状況についての講演を拝聴したかったのですが、残念です。皆様によろしくお伝え下さい。

今野啓司（27回生）
胃全摘から7年。焼物だけ続いています。

庄司貞義（27回生）
ご連絡いただきありがとうございます。鰐陵会のますますのご発展をお祈りいたします。出席できず申し訳ありません。

徳江　明（27回生）
体調をみながら、できるだけ散歩をするようにしています。行政書士業務の合間に、高齢者向けの体操をして現状を維持するのが精一杯です。

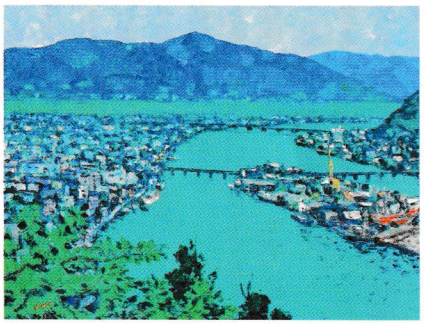
【28回生〜29回生】

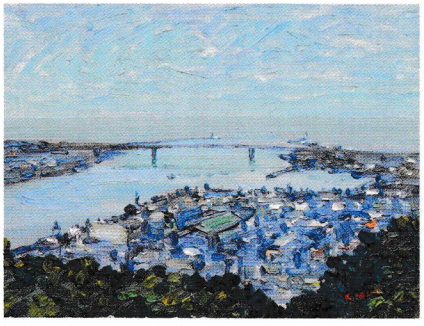
櫻井忠義（28回生）
今年の夏、久しぶりに故郷（広渕）に帰り、かつて高校時代の友人がいた女川まで行ってみましたが、大震災の復旧があまり進んでいないようで気持ちが晴れませんでした。

佐々木利勝（28回生）
足に不備があり申し訳ありません。

三浦常和（28回生）
高齢のため体調があまりすぐれず、欠席とさせていただきます。

渡辺文克（28回生）
先輩にならい元気に務めています。


『青景』（80年代作）　画：熊倉保夫（28回生）


『日和大橋 IV』（80年代作）　画：熊倉保夫（28回生）

ご盛会をお祈りします。

浅沼昭夫（29回生）
皆様のご健勝を祈念しております。

石渡昭男（29回生）
体調不良（透析週3回）。

岡田　正（29回生）
お陰様で元気に暮らしております。地域の活動をしています。皆様のご発展をお祈り致します。

鈴木　勲（29回生）
幹事、世話人の方々、いつも感謝致しております。自分も80歳ですが、もう少しもう少しと、畑に詩吟にゴルフにと、頑張っています。

【30回生〜31回生】

安倍平和（30回生）
ご健勝で！皆様によろしく。

今野末治（30回生）
返答が遅れて申し訳ありません。盛会をお祈りいたします。

鈴木賀夫（30回生）
所用のため欠席します。

高橋勝弥（30回生）
今年1月に妻が脳梗塞で倒れ、日々、悪戦苦闘しています。皆様もお体を大切に。

『船景Ⅱ』（80年代作）　画：熊倉保夫（28回生）

高橋　洋（30回生）
都合により今回は欠席させていただきます。
ご盛会を祈っております。

蜂谷国彦（30回生）
在社した会社の同期ＯＢとの旅行が既に決まっていて、日が重なりましたので残念ですが欠席します。次回は出席するつもりです。日常生活は年齢相応に健康に過ごしています。

畠山　尚（30回生）
残念ですが、今回は欠席させていただきます。
ご盛会を祈念しております。

半澤哲志（30回生）
今年も大船渡市へバス（30名）で2泊3日の支援に行ってきました。青葉区（横浜市）の「子ども食堂」で月に2回、手伝いをしています。地域の公園管理運営協議会で毎週土曜、整備作業のボランティアを行っています。ジムに通い体力維持に努めています。

松田勝治（30回生）
3週間の予定で海外出張にでかけるため欠席します。くれぐれもよろしく。

渡辺　武（30回生）
大変申し訳ございません。他の行事と重なって出席できません。

赤間紘一（31回生）
父母の他界後、帰省も年々少なくなり、物理的には遠距離ではあるものの高校まで過ごした石巻の原風景は記憶から去ることはない！

飯田勝紀（31回生）
術後（前立腺）の経過が思わしくなく欠席します。盛会を祈念します。

伊藤克夫（31回生）
定年退職後、第二の故郷になった東京のいなか東村山で障害者施設の手伝いをはじめ、今はボランティアながら理事長役となり6年、深みにはまっています。貴誌の成家新一氏の御活躍にエールをおくります。ちなみに当法人は知的、精神、身体の三障害の方々を支援しており、成家氏にも教授願えればと。

北川洋三（31回生）
鍼灸師としての治療活動及び専門学校での東洋医学講師として、第二の人生の仕事を続けています。皆様の健康をお祈り致します。

木村照夫（31回生）
同期の新聞部の仲間と1年F組の仲良し計7名。傘寿（数え）を迎えられそうです。こんな齢になると何より健康、元気が一番！

桑島　馨（31回生）
今回所用のため欠席させて頂きます。皆様によろしくお伝えください。

小磯清光（31回生）
ご案内ありがとうございます。（返信葉書に雑誌（？）に寄稿したと思われる記事3篇が添付されていましました）

小竹郁雄（31回生）
予定があり欠席します。

櫻井勝夫（31回生）
お陰様で元気に充実した毎日を過ごしております。

【32回生〜34回生】

猪俣　斌（32回生）
日程が折り合わず出席できませんが、何とか元気に過ごしております。

木村　久（32回生）
町内会行事で参加できません。（会長のため）

川島信二（32回生）
ご苦労さまです。

川名喜久雄（32回生）
体調が思わしくないので、欠席させていただきます。

櫻井正隆（32回生）
趣味のＢｉｒｄ　Ｃａｒｖｉｎｇ（木彫）を楽しんでいます。

桜井庸正（32回生）
体調に問題ある。特に脚力は自分とは思えないほど、よろよろの状態。少しでも改善し、気力を上げたいが…？

須田万里夫（32回生）
療養中につき失礼します。

高橋勝彦（32回生）
歩行困難になり歩けません。電車にも乗れません。小生みたいな石高時代超劣等生の落ちこぼれに案内状を頂きありがとうございます。

舘　克憲（32回生）
ご案内ありがとうございます。今回はどうしてもはずせない行事と重なり、誠に残念ですが、欠席させていただきます。32回生の皆様にお会いしたかったな。残念です。元気でおります。

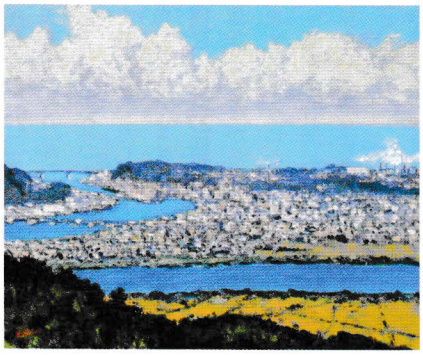
中里成男（32回生）
体調不良のため欠席します。

宮川隆雄（32回生）
現在、介護福祉士として小・中学校の障害児の介助員をしています。また地域ではコーラスや歌声広場の指導を、10数年前から続けています。11月11日も生憎、地域の秋祭りに出演があり、総会には出席できません。喜寿を迎え、皆様と交流したかったのですが、残念です。次回こそ…。

芳沢勇夫（32回生）
歩行困難なため欠席します。

金子　賛（33回生）
家内の体調不良（心筋梗塞）により、出席できませんので皆さんによろしくお願いします。
ご盛会をお祈り申し上げます。

栗原光男（33回生）
当日11日は旅行の先約があり失礼致します。お陰様で「粗食に病気なし」を座右の銘に、元気でやっ


『石巻遠望Ⅱ』（90年代作）　画：熊倉保夫（28回生）

ています。皆様によろしく。

今野秀克（33回生）
4年ぶりの大学同期会を優先させていただきます。高校の集まりも大切な会です。盛会を祈念します。

橋浦武夫（33回生）
元気なうちに先月、兄弟会をやりまして情報交換しました。

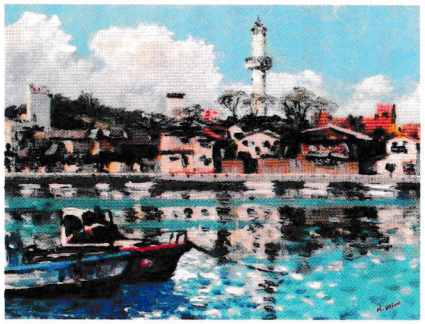
畠山　勝（33回生）
盛大な総会になるよう祈念しております。当方、相変わらず元気でおります。

阿部隆昌（34回生）
現在フィリピンに仕事で行っております。

阿部千春（34回）
出席できず失礼します。皆様がいつまでも元気でおりますよう祈っています。

内崎光劼（34回生）
胃の検査の結果、腫瘍がみつかり11月7日に入院し、内視鏡で切除します。今回出席できませんので皆様によろしくお伝えください。

片平　孝（34回生）



『住吉公園』（80年代作）　画：熊倉保夫（28回生）

取材中。

【35回生〜37回生】

遠藤信行（35回生）
何とか元気に生きています。

佐藤敬一（35回生）
ご案内頂き誠にありがとうございます。残念ですが、所用のため欠席させて頂きます。会のますますの発展とともに、皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げます。

谷　光彦（35回生）
女川元気会のメンバー村井会長、三宅先輩、千葉先輩、沼倉事務局長らとは常に連絡をとっています。昨年参加しましたが、今回、地域コミュニテー祭りが開催され、サンマ、ツミレ等（女川の）「女川コーナー」の指導者となり、どうしても総会にでられません。平素からの鰐陵会活動に心から感謝します。

片岡利光（36回生）
孫（三男の息子・小5）が金沢で開催された小中高生国内ロボット大会で優秀賞をとり、11月16〜18日、タイ・チェンマイで開催されるWRO世界大会に出場することになりました。昨年は7位で、今年こそと1位を目指してがんばっています。検索エンジンサイトにhttp://Goo.gl/bRtm8uと入力すれば日本大会での発表風景が見られます。応援よろしくお願いします。

久道健三（36回生）
当日予定があり参加できません。スミマセン。「公益社団法人整体協会」の整体コンサルタントとして毎日仕事しています。健康についての折々のことをメールマガジン「小金井通信」で発行しています。Myブログ「Ken3通信」もみていただけるとうれしいです。みなさんお元気で！

遠藤信雄（37回生）
11月29日から東アフリカに出張です。当日（11月11日）は、ダルエスサラームで束の間の休日のハズです。11月18日夜帰国します。楽しい集まりになりますよう遠くから祈っています。

岡部博行（37回生）
100か国の訪問を目指して頑張っています。現在80か国、訪問しました。今年はルーマニア、ブルガリア、スリランカを訪問しました。

木田　洋（37回生）
当日は私用のため誠に残念ですが、欠席とさせていただきます。

佐々木貞雄（37回生）
当日は所用のため欠席させていただきます。盛会をお祈りします。

【38回生〜39回生】

青木康一（38回生）
出かける予定が入っており、欠席させていただきます。

阿部盛行（38回生）
丸光時代の同窓会（11月10日）に4年ぶりに出席。2次会には体調を整えて熱演予定です。皆さん、待ってるヨー。

小山慶孝（38回生）
今年は脚力が戻り穏やかに過ごしています。出席出来ませんが、皆様のご健康とご盛会を祈念しております。

熊谷正義（38回生）
現役続行中です。ジム通いで健康対策、油絵教室でボケ防止対策をして過ごしています。皆様のご健勝を念じています。

斎藤　優（38回生）
昨年5月、今年1月に、部位は違いますが、手術、入院しました。現在も継続して通院しています。体調は順調です。みなさまによろしくお伝えください。寒くなってきましたのでご自愛ください。

舘澤　祐（38回生）
出張で都合がつかなくなってしまいました。よろしく。

古川伸壱（38回生）
会員の皆様方のご健勝と会の益々のご発展を祈念いたしております。

横田幸治（38回生）
相変わらずヤマト運輸のDM配達をやっておりますが、恒例の繁忙期の人手不足が重なってしまい、特に土・日は仕事がたてこみ出席不可能となってしまいました。時間が読めませんので、残念ながら二次会以降も欠席とさせていただきます。年相応に心身ともに衰えてきておりますが、まあ元気にやっております。盛会をお祈りします。

渡辺正昭（38回生）
都合により欠席します。当方、相変わらず元気に過ごしています。

岩崎宏幸（39回生）
ご案内ありがとうございます。町内会行事で11月、12月多忙になります。幹事を8年ほど勤めております関係で、土・日は出席しかねます。ご容赦ください。

熊谷道夫（39回生）
相変わらず体力維持（水泳、ゴルフ）に努めるとともに、孫の成長を楽しんでおります。

佐藤泰助（39回生）
今年は老母の見舞いや、古希の祝いへの参加等で石巻への帰省は10回を数えました。行くたびに新しい道や建物ができたりして、着実に復興している石巻の姿に触れ、嬉しく思っています。鰐陵皆様の益々のご健勝を祈念いたします。

立花静一（39回生）
自治会の三役をうけ、手がはなせない仕事が一杯です。みなさんによろしく。

日野　修（39回生）
同窓の皆様に幸多かれと祈念致しております。

多宝塚雄治（39回生）
所用のため欠席します。

【40回生〜41回生】

阿部義治（40回生）
まだ仕事（業務監査FC店）で頑張っています。今年は残念ながら法事と重なり、調整がつかず欠席となります。皆さんよろしく！

金子重芳（40回生）
「東京鰐陵」会報にて昨年の40回生参加者の写真を拝見しました。と

ても懐かしく嬉しい思いがしました。GuitarやPianoを練習してボケないよう努めています。どうぞ皆さん、楽しい時間をお過ごしください。

佐藤俊夫（40回生）
当日は孫の七五三で欠席となりますが、盛会をお祈り致します。

高橋国一（40回生）
現在、軽井沢にてテレビ局の別荘の管理をしています。出席できなくてすみません。

田村　隆（40回生）
皆様、健康で充実した毎日をお過ごし下さい。

榛澤修三（40回生）
皆様のご健康とご盛会を祈念いたします。

水澤純一（40回生）
当日は会社の行事とかち合うため出席できません。折角のお誘いですが、誠に申し訳ありません。

阿部恭三（41回生）
ほぼ健康で暮らしています。

遠藤栄松（41回生）
所用により欠席いたします。ご盛会をお祈り申し上げます。

櫻井正文（41回生）
盛会をお祈り致します。

山形明夫（41回生）
当日、海外出張のため欠席致します。申し訳ございません。

【42回生〜43回生】

伊藤信一（42回生）
石高時代をなつかしくおもう日々です。おかげさまで忙しい毎日です。（まだ働いています）

茂泉吉則（42回生）
当日は公務のため残念ですが、出席できません。特に42回生の皆様には申し訳ありませんでした。当番回生として、負担をおかけしました。

村田　彰（42回生）
10月6日に50年ぶりにギターです。創部55周年イベント（大学時代）。ピアノ、時々サッカーで腹？（ハラ）のゆるい筋肉？がだいぶ出てきています。皆様お体ご自愛ください。

今藤幸一郎（43回生）
所用で欠席致します。ご盛会をお祈りします。

佐々木哲雄（43回生）
参加の予定でいましたが、あいにくと仕事が入り参加できません。当番回生と聞いていましたが、申し訳ありません！

鈴木　実（43回生）
投函おそくなり申し訳ありません。皆様によろしくお伝えください。

佐藤休三（43回生）
週4日、県立高校で、非常勤で教えています。山歩きで健康増進に努めています。次回は参加します。

三浦節夫（43回生）
検診で食道がんが見つかり手術。70歳まで教育に専念する予定。

松谷　昇（43回生）
当日シニアの卓球団体戦があり、出席できません。退職後、趣味の卓球を楽しんでいます。

吉田祐一（43回生）
仕事（舞台）のため欠席します。

【44回生〜49回生】

伊藤裕康（44回生）
来年3月で65歳になり、現在勤めている富士通研究所RID戦略本部IDR戦略室に机や椅子がなくなりますのでどうしようかと思案しています。体力はまだまだありますからね。

伊藤英二（45回生）
仕事が休めず出席できません。どうぞ楽しいひとときをお過ごし下さい。

岡田文彦（45回生）
只今、骨折のリハビリ中。松葉杖を使用。

伊藤　隆（46回生）
現在、早稲田大学ラグビーOB会副会長、関東ラグビー協会理事をしております。

伊藤哲郎（46回生）
某協会からの面接委員の依頼のため欠席いたします。東京鰐陵会を運営して下さる皆様には常日頃感謝しております。今後もよろしくお願い致します。

牛渡　俊（46回生）
定年退職し、専業主夫歴も3年になりました。のんびり過ごしています。

尾口英昭（47回生）
長期出張のため参加できません。ご盛会をお祈り致します。いつもありがとうございます。

星野祐一（47回生）
幹事の皆様、ありがとうございます。長男の結婚式のため欠席させていただきます。相変わらず、月1〜2回の石巻への往復を続けております。ご盛会をお祈り申し上げます。

笹森幸弘（49回生）
土曜または祭日の開催を希望します。

【50回生〜】

沼館拓彰（50回生）
毎年石巻には帰っています。病気とは無縁で頑張っています。

石原正也（51回生）
今回も日程が合わず欠席となりました。またの機会を楽しみにしています。会費H29・30の2年分振込ました。

武山智明（51回生）
ご案内を頂きながら都合がつかず欠席させて頂きます。申し訳ございません。東京鰐陵会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

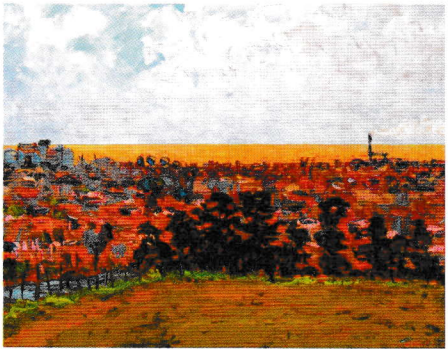
高橋章建（52回生）
10月初めに4日間ほど、母親の世話のため石巻へ帰省しました。買い物以外はあまり外に出かけることは出来ませんでしたが、石巻の生活は子供の頃の思い出をよみがえらせてくれました。

佐々木克仁（60回生）
お世話になっております。初参加させて頂きました昨年より大変良くして頂き、どうもありがとうございます。また「東京鰐陵会16号」には、私のことを大きく掲載頂きまして光栄と思っております。今回は仕事のため、とても残念でありますが、欠席させていただきます。皆様、くれぐれもよろしくお願い致します。

渡邊公威（64回生）
遅くなり申し訳ございません。当日は愛知県での第九コンサート本番と重なり、出席かなわずとても残念です。また、2019年4月28日14時〜渋谷のオーチャードホールにて東京二期会の公演オペラ「エロディアード」（マスネ作曲）にメインキャストで出演させていただきます。鰐陵会の皆様に応援いただけましたら心強く、ぜひ、よろしくお願い致します。

木村祐介（75回生）
本年もお誘いいただきありがとうございました。今回は誠に残念でございますが、家事都合で欠席致します。相変わらず東京の会社におりますので、またの機会にお目にかかれることを楽しみにしております。

（以上）



『ひばりの海岸の夕暮れ』（80年代作）
【石巻高校寄贈作品】　画：熊倉保夫（28回生）

第27回東京鰐陵会総会出席者名簿（2018.11.11）

回生	氏名	中学	部活
24	加藤　直人	旧制	音楽
24	佐藤　充俊	旧制	バレー
25	阿部　剛	石巻	陸上
25	高橋　清記	大谷地	—
25	武山　勝	石巻	—
25	中里　裕二郎	住吉	—
25	水澤　昇	石巻	水泳
25	吉野　敏	雄勝	考古学
26	樋口　一郎	住吉	
26	三宅　宗議	女川	人文科学
27	阿部　尚之	門脇	—
27	稲葉　實	江島	—
27	上原　藤三	石巻	生物
27	桑島　進	須江	新聞
27	菅井　武彦	矢本	ラグビー
27	平塚　久義	女川	ラグビー
27	平山　貞夫	石巻	サッカー
27	三宅　哲	女川	美術
27	吉田　貢	中津山	—
28	小野寺康充	矢本	物理
28	成澤　良	小野	美術
29	安倍　正剛	湊	卓球
29	今井　寅三郎	須江	考古学
29	岩渕　茂	門脇	考古学
29	木村　莞爾	飯野川	—
29	今野　勝幸	住吉	バレー
29	高橋　伝四郎	月浜	文芸
29	千葉　弘二	女川	柔道
29	千葉　慶胤	渡波	—
29	半澤　正義	赤井	ラグビー
29	守屋　晃治	門脇	柔道
29	山本　久敬	赤井	—
30	亀井　勝雄	住吉	—
30	木村　長人	大塩	陸上
30	首藤　光春	石巻	ラグビー
31	奥山　興悦	住吉	英語研
31	遠山　日出夫	稲井	柔道
32	加藤　憲一	野蒜	—
32	小林　喬郎	石巻	山岳
32	手代木　扶	門脇	—
33	阿部　倫夫	門脇	山岳
33	木村　貴則	住吉	—
33	熊谷　正茂	矢本	卓球
33	堀内　文夫	住吉	陸上
33	山内　明	大谷地	—
34	明石　公夫	中津山	柔道
34	岡部　勇太	住吉	—
34	久保　文征	住吉	陸上化学
34	今野　勝三	湊	柔道
34	佐藤　洋一	門脇	—
34	須田　紘一	女川一	—
34	武山　佑三	住吉	—
34	千葉　保宗	住吉	—
36	阿部　禧一	住吉	—
36	阿部　長光	大川	—
36	菊地　潔	湊	軟テニス
36	三浦　亨	宮城野	軟テニス
37	安住　知彦	大原	書道
37	阿部　義夫	湊	野球
37	遠藤　順政	渡波	—
37	大森　雅司	住吉	—
37	今野　和明	大塩	—
37	境田　憲男	湊	ラグビー
37	榊　勝一郎	大川	テニス
37	佐藤　悠	住吉	剣道
37	砂金　正郎	涌谷	—
37	高橋　佐千郎	飯野川	生物
37	高橋　光正	石巻	—
37	丹野　静也	門脇	柔道
37	千葉　徹	飯野川	—
37	三浦　岩男	矢本二	人文科学
37	村井　善郎	女川一	演劇
38	安住　豊	女川一	化学
38	和泉　耕二	住吉	音楽
38	熊谷　勝義	湊	—
38	佐藤　宏	石巻	美術
38	丁子　幹雄	住吉	音楽
38	長沼　金彌	大原	サッカー
38	早川　誠	門脇	吹奏楽
40	岩崎　久二夫	石巻	人文科学
40	加藤　友成	石巻	吹奏楽
40	木村　道夫	渡波	柔道
40	斎藤　紀夫	門脇	軟テニス
40	瀬川　徹	門脇	生徒会
40	高橋　憲司	住吉	サッカー
41	斎藤　巧	門脇	物理
41	佐々木　清	鹿又	剣道
41	佐藤　幸男	石巻	ペン
41	菅原　新也	篦岳	水泳
41	高橋　兵一	飯野川	—
41	沼倉　寿男	女川一	野球
41	藤原　秀悦	石巻	バスケ
41	宮増　秀一	矢本一	—
42	鈴木　卓郎	大川	剣道
42	田口　敏明	住吉	—
42	新田　輝夫	石巻	陸上
42	村上　圭司	住吉	—
43	伊藤　純一	飯野川	軟テニス
43	小田島孝好	石巻	柔道
43	木村　長門	湊	
43	成澤　貴義	雄勝	—
43	矢野　光雄	矢本一	ラグビー
43	若山　栄作	中津山	重量挙げ
43	和賀井啓之	住吉	—
44	半澤　竹彦	大原	軟テニス
45	山崎　義二	鳴瀬一	陸上
48	荒木　泰弘	門脇	軟テニス
48	遠藤　豊明	鮎川	ワングル
48	鈴木　雅芳	石巻	野球
50	伏見　英敏	東浜	太極拳
50	本庄　雅之	門脇	バスケ
55	谷口　大造	矢本一	吹奏楽
56	星野　知倫	石巻	ラグビー
59	飯坂　正弘	不動堂	柔道
59	佐藤　昌克	住吉	テニス
62	成家　新一	石巻	卓球

【御来賓者】

石巻高等学校　校長　　小松　敦 先生
鰐陵同窓会（本部）
会　　長　　青木　利光 様（43 回生）
事務局長　　中塩　一夫 様（49 回生）

【講演者】

石巻市長　　亀山　紘（33 回生）

【東京鰐陵会役員】

会　長　　佐藤　　悠（37 回生）
副会長　　丹野　静也（37 回生）
副会長　　境田　憲男（37 回生）
監　事　　木村　貴則（33 回生）
監　事　　堀内　文夫（33 回生）
参　与　　三宅　　哲（27 回生）
参　与　　木村　莞爾（29 回生）
参　与　　千葉　弘二（29 回生）
参　与　　千葉　保宗（34 回生）

第27回総会運営資金援助協力者名簿（2019.4.30 現在）

回生	氏名
20	安住　重一
21	織野　善夫
21	菊地　文治
21	櫻田　巌
21	佐々木紀雄
21	山崎　節夫
22	阿部　彦八
22	鈴木　善治
22	吉田　正文
23	荒川　竹雄
23	亀山　兵吉
23	佐々木吉男
23	野中　浩
23	吉田　昌利
24	芦原　潤
24	貝　啓
24	桑田　信治
24	古座　明郎
24	髙山　研造
24	玉河　信也
24	土屋　清治
24	手塚　康二
25	青沼　義信
25	安住　重則
25	津田　健三
26	浅野　貞夫
26	菊地　上
26	崎野　隆三
26	鈴木　春雄
26	芳賀亥八男
27	石田　三成
27	和泉　三男
27	小松　一郎
27	庄司　貞義
27	田村　修
27	徳江　明
27	船田　清孝
28	桜井　忠義
28	佐々木利勝
28	渡辺　文克
29	浅沼　昭夫
29	芦原　尚
29	鈴木　勲
30	石橋　隆雄
30	菊地　博
30	窪田　敏郎
30	今野　末治
30	鈴木　賀夫
30	高橋　勝弥
30	髙橋　洋
30	寺澤　正興
30	畠山　尚
30	蜂谷　國彦
30	半澤　哲志
30	松田　勝治
30	渡辺　武
31	赤間　紘一
31	飯田　勝紀
31	伊藤　克夫
31	内海　幸三
31	北川　洋三
31	木村　照夫
31	櫻井　勝夫
31	松本　喜男
32	阿部　隆雄
32	猪俣　斌
32	角田　守弘
32	川島　信二
32	川名喜久雄
32	木村　久
32	後藤　嘉己
32	櫻井　庸正
32	清水　義郎
33	舘　克憲
32	中里　成男
32	宮川　隆雄
33	阿部　靖
33	金子　賛
33	木村日出夫
33	橋浦　武夫
33	畠山　勝
33	松川　健
34	安倍　隆昌
34	阿部　千春
34	内崎　光劼
34	金澤　洋
34	金子　努
34	今野　和明
34	佐々木孝三
34	西條　修
35	谷　光彦
35	畠山　俊昭
35	星野　捷二
35	村上　定
36	大杉　彬
36	相良　秀夫
36	藤　俊治
37	安倍　和則
37	伊藤　孝道
37	遠藤　信雄
37	岡部　博行
37	西條　紀郎
37	佐々木貞雄
38	阿部　英明
38	阿部　盛行
38	大林　正人
38	尾形　慎次
38	熊谷　明敏
38	熊本　正義
38	小池　泰
38	小山　慶孝
38	佐々原二郎
38	館澤　佑
38	中島　智
38	船山　浩志
38	古川　伸壱
38	渡部　正昭
39	岩崎　宏幸
39	熊谷　道夫
39	佐々木俊教
39	佐藤　泰助
40	阿部　義治
40	金子　重芳
40	佐々木清光
40	高橋　国一
40	田村　隆
40	榛澤　修三
40	水澤　純一
41	阿部　芳郎
41	遠藤　栄松
41	片倉　純一
41	小関　眞悦
41	櫻井　政文
41	山形　明夫
42	伊藤　信一
42	伊藤　輝昭
42	川元　和紀
43	遠藤　洋治
43	今藤幸一郎
43	佐藤　休三
43	鈴木　実
43	松谷　昇
43	吉田　祐一
44	鶴岡　秀俊
45	伊藤　英二
45	岡田　文彦
45	四野見喜久男
46	伊藤　隆
46	伊藤　哲郎
46	牛渡　俊
46	佐藤　賢一
46	伏見　洋之
47	及川　和彦
47	尾口　英昭
47	佐藤　敦彦
47	星野　祐一
48	加藤　博
49	笹森　幸弘
49	千葉　英明
50	髙橋　巌
50	沼舘　拓彰
51	石原　正也
52	髙橋　章建
52	三浦　得雄
58	後藤　眞毅
59	津田　保
60	佐々木克仁
64	渡邊　公威
75	木村　祐介

合計：169名／369,000円

訃報

前回総会以降の連絡及び今回の総会開催案内の返信で、下記会員のご逝去の報をお受けしました。心からご冥福をお祈り申し上げます。
鰐陵回生順、括弧内は、お受けした返信によるご逝去の年月日です。

記

・11回生　島津　秀夫　様（平成28年 2 月 2 日）
・23回生　高橋　寿雄　様（平成31年 1 月23日）
・27回生　坂本　幸久　様（平成30年 6 月30日）
・28回生　八木　　茂　様（平成27年11月 9 日）
（第27回総会の回答締め切り後、到着した返信ハガキ）
・28回生　神山　公男　様（平成30年 8 月 8 日）
・29回生　佐々木　健　様（平成31年 1 月15日）
・31回生　遠藤　隆治　様（平成30年10月28日）
・33回生　杉山　　明　様（平成30年11月20日）
・37回生　池田　精寿　様（平成30年 6 月23日）
・37回生　阿部　直哉　様（平成30年 9 月 6 日）
・37回生　阿部　義夫　様（平成31年 3 月15日）
（2019.7.1 現在）

東京鰐陵会役員名簿（敬称略）

役職	回生	氏名
参　与	27	三宅　哲
参　与	29	千葉　弘二
参　与	29	木村　莞爾
参　与	34	千葉　保宗
監　事	33	木村　貴則
監　事	33	堀内　文夫
会　長	37	佐藤　悠
副会長	37	丹野　静也
副会長	37	境田　憲男
事務局長	40	加藤　友成
事務局次長	40	瀬川　徹
事務局次長（会計担当）	42	新田　輝夫
事務局次長（会計担当）	43	伊藤　純一
理事	21	青山　景一
理事	22	鈴木　善治
理事	25	阿部　剛
理事	25	中里祐二郎
理事	25	武山　勝
理事	26	浅野　貞夫
理事	27	平塚　久義
~~理事~~	~~28~~	~~神山　公男~~
理事	28	成澤　良
理事	29	今井　寅三郎
理事	29	岩渕　茂
理事	29	今野　勝幸
理事	29	松川　文隆
理事	30	木村　長人
理事	30	首藤　光春
理事	30	鈴木　賀夫
理事	30	蜂谷　国彦
理事	31	飯田　勝紀
理事	31	~~小竹　郁夫~~
理事	32	小野寺　義昭
理事	32	手代木　扶
理事	33	熊谷　正成
理事	34	久保　文征
理事	34	佐藤　洋一
理事	34	須田　紘一
理事	34	武山　祐三
理事	35	平塚　征一
理事	36	阿部　長光
理事	36	菊地　潔
理事	37	村井　善郎
理事	38	安住　豊
理事	38	和泉　耕二
理事	38	熊谷　勝義
理事	38	丁子　幹雄
理事	38	早川　誠
理事	40	加藤　友成
理事	40	瀬川　徹
理事	40	阿部　義治
理事	40	斎藤　紀夫
理事	41	高橋　兵一
理事	41	沼倉　寿男
理事	41	山形　明夫
理事	42	茂泉　吉則
理事	42	鈴木　卓郎
理事	42	新田　輝夫
理事	43	伊藤　純一
理事	43	成澤　貴義
理事	43	吉田　祐一
理事	44	半澤　竹彦
理事	48	鈴木　雅芳
理事	49	平塚　仁
理事	52	大内　浩
理事	56	亀山　光浩
理事	56	星野　知倫
理事	58	浅野　剛
理事	58	三枝　健寿
理事	59	佐藤　昌克

平成３０年度　東京鰐陵会　収支報告書

自　平成２９年１０月１日　～　至　平成３０年９月３０日

東京鰐陵会　会長　佐藤　悠
会計担当　早川　誠

収入の部

	科目	収入金額（円）	摘要
前期繰越金		４６３，０７０	平成２９年１０月１日現在繰越金
一般収入	協力金	７２，５２６	理事からの寄付金等
	運営資金援助	５４０，０００	会員からの寄付金（１５０名）
	雑収入	５	郵貯、銀行利子
	収入　小計	６１２，５３１	
総会収入	会費	１，３３２，０００	１３４名（1万円１３０名、９千円　３名 ５千円　１名）
	来賓ご祝儀	３６，０００	本部同窓会会長・校長先生等４名
	収入　小計	１，３６８，０００	
収入合計		２，４４３，６０１	

支出の部

	科目	支出金額（円）	摘要
一般支出	会議費	１９，１００	会議室使用料
	「東京鰐陵」16号発行費	３１２，０１２	1,500部印刷（デザイン料、諸経費込み）
	ホームページ維持費	１３，３８４	サーバー利用料
	交通費、会費	１０３，４２２	鰐陵本部総会旅費・会費、本部会報広告費
	通信費、雑費	３１，７７３	理事会出欠はがき代、切手代、インク代等
	支出　小計	４７９，６９１	（一般収支差額　１３２，８４０円）
総会支出	宴会費	１，０５６，４６４	宴会会場費・飲食代、演奏者お車代等
	準備費用	１７９，５５４	案内状印刷、宛名シール、封筒作成、郵送費等
	関係事務・雑費	１１３，６７３	米寿・喜寿祝い品、一の蔵酒代、通信費等
	支出　小計	１，３４９，６９１	（総会収支差額　１８，３０９円）
支出合計		１，８２９，３８２	

収支の差額	６１４，２１９円	次期への繰越金

現金	３６，２６３円	郵便貯金	５４０，９３０円
銀行預金	３７，０２６円		

上記監査の結果、正確・適正に処理されていることを認めます。

平成３０年８月２４日

監事　木村　貴則　印
監事　堀内　文夫　印

発　行●東京鰐陵会（石巻高等学校同窓会東京支部）
会長　佐藤　悠
発行所●〒116-0001 東京都荒川区町屋7-19-5-312
東京鰐陵会事務所（早川　誠 方）
TEL & FAX：03-3809-0848
編　集●東京鰐陵編集委員会

【振込み口座】●郵便振替口座番号：00180-4-350194
加入者名：東京鰐陵会

「東京鰐陵会第28回総会」告知

2019年の「東京鰐陵会第28回総会」は
11月10日（日）12時～15時、
東海大学校友会館（霞ヶ関ビル35階）

お待ちしてま～す!!!

［第2部予告］講演会

伊藤隆関東ラグビー協会理事（46回生）をお迎えし「ラグビー概況」（案）と題してご講演いただきます。現役時代は早稲田大学キャプテン→全日本代表（リコー）として活躍、現在はラグビー関係団体役員としてラグビー界の発展に奔走されております。今回は日本での「ラグビーワールドカップ2019開催」を記念して「ワールドカップ」をはじめとして「ラグビーの本質」、「最近の石巻とラグビーの関わり」、等についてお話いただきます。ご期待ください!!!

【編集後記】

会報17号は「令和元年」、代替わりの年の発行となりました。これまでの会報の体裁を全面的に改め、タブロイド版・モノクロ形式からA４版・カラー・中綴じ・冊子形式へと変更しました。

主たる理由は経費の問題です。厳しい会の財政状況の中で、経費がかかっている会報のあり方を見直すためワーキンググループを設け５か月にわたって検討を重ねました。その結果、昨年暮れの運営委員会で会報誌を今回の新形式に改めることを決定しました。

誌面の編集は、佐藤悠会長（37回生）、丹野静也副会長（37回生）、境田憲男副会長（37回生）、加藤友成事務局長（40回生）、新田輝夫事務局次長（42回生）、伊藤純一理事（43回生）の６人が担当しました。

新しい誌面づくりということで、編集作業は文字通り手探りの状態でしたが、前号までの委員の協力も得ながら何とか発行に漕ぎつけることができました。

内容は会長挨拶を兼ねた第27回総会報告をはじめ、同窓会会長、石巻高校校長の挨拶、総会欠席者からの連絡葉書に記載されていた近況報告、更には同期生ごとに着席している総会の各テーブルの写真など、主な記事はこれまで通り掲載し、誌面の継承性、継続性を心がけました。カラー写真によってより臨場感が増した総会の様子や雰囲気を感じ取って頂ければ幸いです。

総会は、毎年11月第２日曜日の正午から関が関ビル35階の東海大学校友会館で開催します。この日に併せて、年１回の同期会を計画することも可能です。前回の参加者名簿を参考にしてお集りください。

東京鰐陵会は会費を徴収せず、会員有志の寄付で運営しています。総会案内で欠席者には「一口千円以上の運営資金の協力」をお願いしています。この会報誌の発行費用も含めてご支援、ご協力をお願い致します。

第27回総会の運営資金のご協力をいただいた方々の名簿は、出席者名簿と共に掲載しました。振込口座は最終ページに掲載していますのでご覧ください。

併せて、新しい会報誌に対する忌憚のないご意見をお寄せ下さい。今後の誌面づくりに反映していきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

（編集委員会）